

剣崎上小路遺跡

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2015

高崎市教育委員会
株式会社 HSC
有限会社 高澤考古学研究所

例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市剣崎町字上小路 810 番 1、810 番 11 に所在する「剣崎上小路遺跡」(高崎市遺跡調査番号 608) の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、株式会社 HSC 様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課
有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
- 6 発掘調査は、平成 26 年 (2014) 9 月 1 日から平成 26 (2014) 年 10 月 14 日までの期間で実施した。調査面積は 300m²である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
- 8 基準・水準点測量および遺構平面図測量はタナカ設計に委託した。
- 9 空中撮影は加藤空撮に委託した。
- 10 遺構および遺物撮影は、澤田が行った。
- 11 発掘調査および整理作業に従事した者は、以下の通りである。(敬称略、50 音順)
飯塚 時司・小林 貴子・小和瀬 深夏・澤田 美枝子・澤田 恵美・住谷 次雄・関根 折夫・関口 弘子
森田 恵子・蓬田 保伯・渡 明秀
- 12 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡 例

- 1 遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標IX系を使用した。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局(財)日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500 (高崎市都市計画基本図) を使用した。
- 4 遺物実測図において須恵器の断面は黒塗り、灰釉陶器の断面は 70%、土師器の断面は白抜きで表現した。
- 5 遺物実測図において反転復元実測をした個体は口縁部線と中心線を離して表現した。
- 6 揭載図の縮尺は、各キャプション及び各図に示した通りである。
- 7 揭載図中に使用した断面図において、使用面は太線で表現した。
- 8 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。

As-YP	約 15,000 年前降下「浅間板鼻黄色輕石」
As-C	3 世紀後半降下「浅間 C 輕石」
As-B	1108 年(天仁元年) 降下「浅間 B 輕石」
As-A	1783 年(天明 3 年) 降下「浅間 A 輕石」

目次

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	4
V 調査の成果	6
VI 総括	26
写真図版	
参考文献・抄録	

挿図・挿表目次

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	3
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)	4
第3図 基本堆積土層 柱状図	4
第4図 遺跡全体図 (1/250)	5
第5図 第5図 1・13・14号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30) 出土遺物図 №7・8 (1/2) №1・5・6 (1/3) №2～4 (1/4)	10
第6図 2号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30) 出土遺物図 №9 (1/4)	11
第7図 3・5号住居 平・断面図 (1/60) 出土遺物図 №10 (1/3)	11
第8図 7号住居 平・断面図 (1/60) 出土遺物図 №11 (1/3) №12 (1/4)	12
第9図 4号住居 平・断面図 (1/60) 8号住居 平・断面図・貯蔵穴断面図 (1/60)	12
第10図 8号住居 カマド平・断面図 (1/30) 出土遺物図 №13・15 (1/3) №14・16 (1/4)	13
第11図 8号住居 出土遺物図 №17～23 (1/4)	14
第12図 6・9号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30) 出土遺物図 №24～30 (1/3)	15
第13図 10・17号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30) 出土遺物図 №31・33・34 (1/3) №32・35・36 (1/4) №37 (1/2)	16
第14図 11号住居 平・断面図 (1/60) カマド平・断面図 (1/30) 出土遺物図 №38・39 (1/3) №40～43 (1/4)	17
第15図 12号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30) 出土遺物図 №44～50 (1/3) №51 (1/4)	18
第16図 15号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30) 出土遺物図 №52・53 (1/3)	19
第17図 16号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30)	19
第18図 16号住居 出土遺物 №54～58 (1/3) №59～61 (1/4)	20
第19図 18・19号住居 平・断面図 (1/60)	20
第20図 20号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30)	20
第21図 20号住居 出土遺物図 №62～65 (1/3) №66・67 (1/4)	21
第22図 21号住居 平・断面図 (1/60) 出土遺物図 №68～70 (1/3) №71～73 (1/4)	21
第23図 1号竪穴状遺構 平・断面図 (1/60)	22
第24図 1号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №74～78 (1/3) №79 (1/4)	22
第25図 2号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №80 (1/3)	23
第26図 3号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №81 (1/3)	23
第27図 4号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №82 (1/3)	23
第1表 周辺遺跡一覧表	3
第2表 出土遺物観察表 (単位cm)	24

写真図版

PL1:空撮写真 PL2:調査写真 PL3:調査写真 PL4:調査写真 PL5:調査写真 PL6:調査写真 PL7:調査写真
PL8:出土遺物写真 PL9:出土遺物写真 PL10:出土遺物写真 PL11:出土遺物写真

I 調査に至る経緯

平成 26 年 3 月、土地所有者株式会社 H S C から高崎市剣崎町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である八幡 14 遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 3 月 3 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 4 月 11 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代から平安時代の竪穴建物を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「剣崎上小路遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 26 年 8 月 11 日に、株式会社 H S C ・ 民間調査機関の有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結し、同年 8 月 12 日に、株式会社 H S C と有限会社高澤考古学研究所との間で契約を締結した。調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から 30 ~ 83cm 下であることが確認されている為、平成 26 年 9 月 2 日に重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘調査通り古墳時代から平安時代の竪穴住居と土坑が確認された。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を撮りながら調査を行った。写真は 35mm 小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの 2 種類のフィルムを使用し、1010 万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量はトータルステーションを使用し作成した。全ての遺構の調査が終了した後、ラジコンヘリコプターにて空撮を実施し、併せて各遺構の全景撮影を行った。平成 26 年 10 月 10 日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

9月 1日	器材搬入 現場調査準備
9月 2日	重機による表土除去作業開始 遺構確認作業開始
9月 4日	重機による表土除去作業終了 試掘トレンチ掘り下げ作業 GPS による基準点測量
9月 5日	調査区壁精査 サブトレンチ設定し重複遺構の確認作業
9月 9日	竪穴住居掘り下げ作業開始
9月 22日	トータルステーションによる平面図作成作業
9月 30日	竪穴住居掘り方調査開始
10月 3日	竪穴状遺構および土坑掘り下げ作業開始
10月 10日	空撮および高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
10月 14日	現場撤収作業

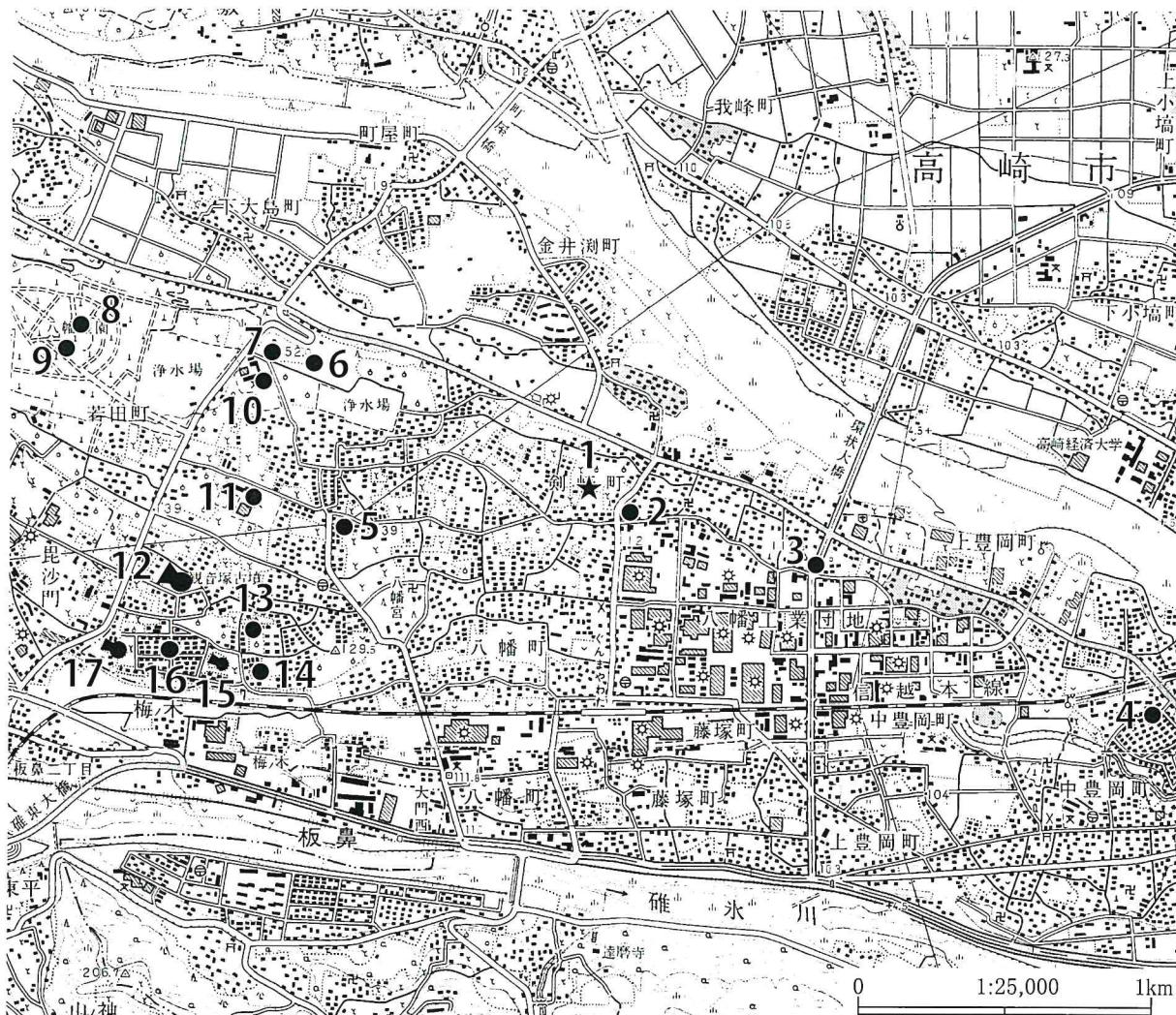
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉢山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。剣崎上小路遺跡は、高崎市街地より北西約4.2km、烏川と碓氷川の両河川に挟まれた台地上に所在する。この台地は八幡台地と称され、安中市の秋間丘陵から連続する丘陵の先端部分で、東西に延びる2本の小支谷により大きく3つの台地に分けられる。北側が剣崎支台、中央部が若田支台、そして南側が八幡支台と呼ばれ、各支台上では遺跡が密に存在し、本遺跡はこの剣崎支台の南東側縁辺部に位置し、標高は約128.5mである。

周辺遺跡として、旧石器時代の遺跡は確認されていないが、剣崎長瀧西遺跡（6）において爪形文土器、多繩文系土器、有舌尖頭器等が出土しており、縄文時代草創期からの生活が伺える。また、若田原遺跡（9）では前期末葉及び中期後半から後期中葉の住居跡が確認され、大島原遺跡（10）においても中期後葉の住居跡が検出されている。弥生時代になると遺跡は増大し、後期樽式期には八幡遺跡（16）、剣崎長瀧西遺跡、引間遺跡（3）等において比較的大規模な集落が営まれるようになる。古墳時代では、剣崎長瀧西遺跡、八幡中原遺跡（11）、七五三引遺跡（5）にて韓式系土器が検出され、剣崎長瀧西遺跡においては他に、梯子形立闇付X字銘留柾円形鏡板付轡や金製垂飾付耳飾りが出土するなど朝鮮半島に系譜をもつ渡来系の遺物の検出例が多く、渡来人による牧（牧場）の運営が推測される地域である。また、古墳及び古墳群も密に存在しており、5世紀代には剣崎天神山古墳（2）<5世紀中葉か？>、剣崎長瀧西古墳（7）<5世紀後半>、平塚古墳（17）<5世紀後半～末>が築かれ、6世紀代には、若田大塚古墳（8）<6世紀初頭>、八幡二子塚古墳（15）<6世紀代>、観音塚古墳（12）<6世紀末>が構築される。群集墳に関しては、これら主要な古墳に隣接して築造されており、5世紀後半代の初期群集墳が確認された剣崎長瀧西遺跡、5世紀後半から7世紀代の群集墳である八幡遺跡古墳群（16）、7世紀代の大島原遺跡古墳群（10）などが構築され、周辺一帯では数多くの古墳が確認されている。奈良、平安時代においても遺跡は多く存在し、豊岡後原遺跡（4）、八幡中原遺跡では大集落が確認されている。また、八幡六牧遺跡2（13）では「片畠郡」と線刻された須恵器甕片が出土しており、近隣は片岡郡との関連も示唆される地域である。中世における周辺での資料は乏しいが、15世紀末から16世紀初頭に築城された八幡館跡（14）が台地の南縁辺部にあり、市内を見渡せる良地にある。

また、八幡支台は、台地に沿って古代東山道のルートが想定されており、野後駅（安中市）から群馬駅（前橋市総社町）へ北上する「国府ルート」と野後駅から東へ向かう「牛堀・矢ノ原ルート」との分岐点にあたり、交通の要衝としての性格も有する地域である。





第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	遺跡の概要	文献
1	本遺跡	古墳・奈良・平安時代 集落	本報告書
2	剣崎天神山古墳	円墳（墳丘径約 30m）5世紀前半	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
3	引間遺跡	弥生時代後期～古墳時代後期 集落	1979『引間遺跡』高崎市文化財調査報告書第5集
4	豊岡後原遺跡	奈良・平安時代 集落	1998『豊岡後原I・II遺跡』高崎市文化財調査報告書第157集
5	七五三引遺跡	古墳時代 集落 韓式系土器	1984『七五三引遺跡』高崎市文化財調査報告書第6集
6	剣崎長瀬西遺跡	縄文時代早創期・早期・中期 弥生～奈良時代 集落 韓式系土器 馬埋葬土坑 金製垂飾付耳飾 5世紀後半初期群集墳 7世紀代群集墳 古墳 35基	2002『剣崎長瀬西遺跡1』高崎市文化財調査報告書第179集 2004『剣崎長瀬西遺跡2』高崎市文化財調査報告書第190集
7	剣崎長瀬西古墳	円墳（墳丘径約 30m）5世紀後半	2002『剣崎長瀬西遺跡1』高崎市文化財調査報告書第179集
8	若田大塚古墳	円墳（墳丘径 29.5m）6世紀初頭	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
9	若田原遺跡	縄文時代前期末・中期 集落	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
10	大島原遺跡	縄文時代中期 古墳時代 集落	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
	大島原遺跡古墳群	古墳 11基 7世紀代	
11	八幡中原遺跡	古墳～奈良・平安時代集落 韩式系土器	1982『八幡中原遺跡』高崎市文化財調査報告書第31集
12	觀音塚古墳	前方後円墳（全長 96m 以上）6世紀末～7世紀初頭	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
13	八幡六牧遺跡2	弥生～奈良平安時代 集落 線刻土器	2010『八幡・六枚遺跡2』高崎市文化財調査報告書第274集
14	八幡館跡	方形館（複郭か）15世紀末～16世紀初頭 上杉氏か	1996『新編 高崎市史 資料編3 中世I』高崎市
15	八幡二子塚古墳	前方後円墳（全長 66m）6世紀前半	1998『八幡二子塚古墳』高崎市文化財調査報告書第71集
	八幡二子塚遺跡	弥生・平安時代 集落 古墳 2基	
16	八幡遺跡	弥生～奈良・平安時代 集落 方形周溝墓 1基	1989『八幡遺跡』高崎市文化財調査報告書第91集
	八幡遺跡古墳群	古墳 25基 5世紀後半～7世紀後半	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
17	平塚古墳	前方後円墳（全長 105m 以上）5世紀後半～末葉	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市



第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

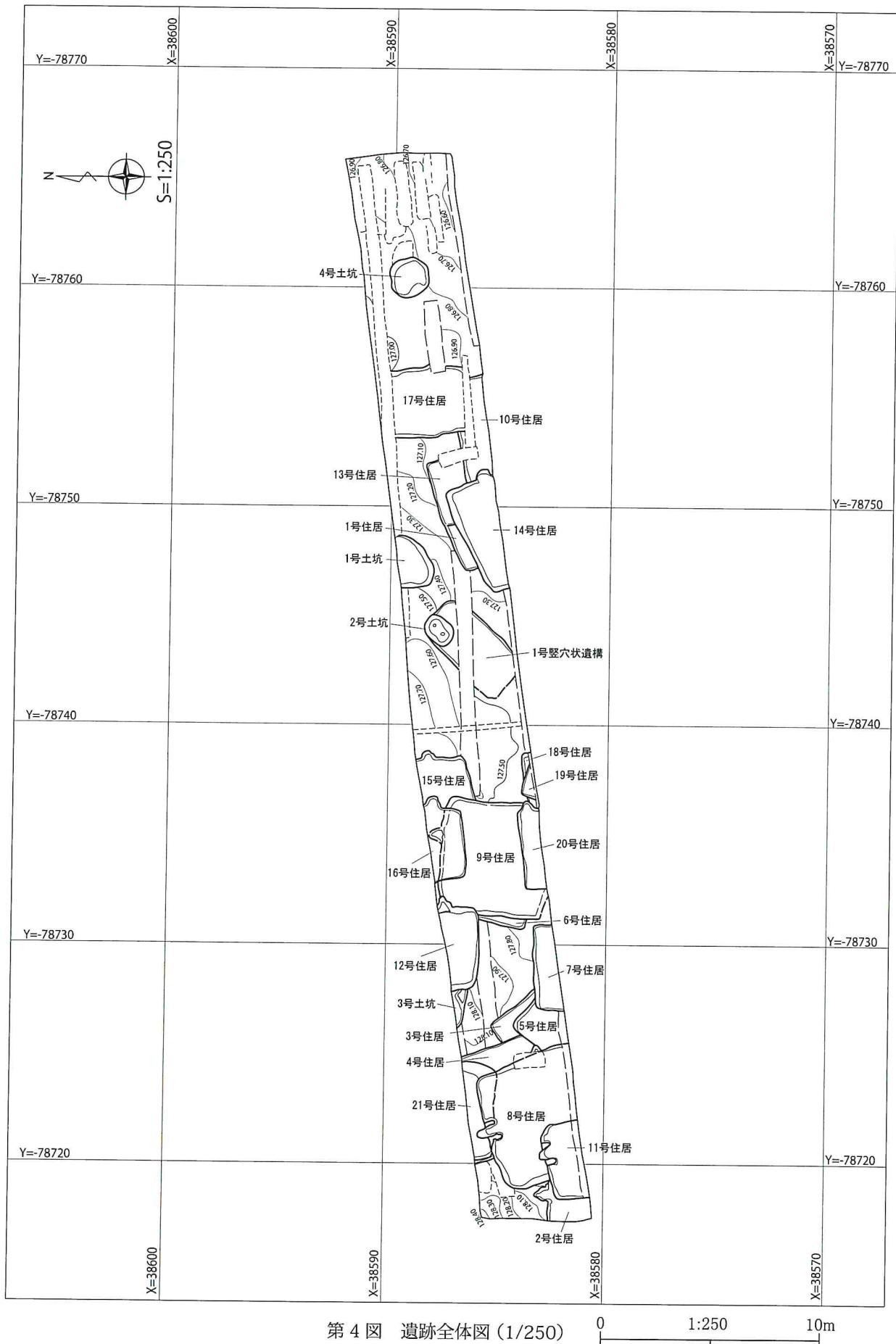
IV 基本堆積土層

I層は現耕作土で約10～20cm堆積している。II層はAs-A粒と考えられる白色軽石と、As-B粒の混土層で調査区北側の壁では約30～40cm程厚く堆積し、南側の壁は若干薄くなる傾向にある。遺物を包含し、焼土粒および炭化物粒を少量含む。本層下が遺構確認面で、現地表からは約30～80cm下である。III層は褐色土層でAs-YPと考えられる黄色軽石を含み、約5～10cm程堆積している。IV層は黄色土層でAs-YPと考えられる黄色軽石をやや多く含み、白色粒を少量含む地山である。硬くしまり、部分的に粘性がある。

調査区北側基本堆積

V	V	V	V	V	V	GL = 128.50 m
I 表土		粘性弱・しまり弱 現耕作土				GL - 10 ~ 20cm
II 暗褐色土層		粘性弱・しまりややあり 白色粒(As-Aか)とAs-Bの混土層 少量の焼土粒と炭化物粒を含み遺物を包含する				
遺構確認面						GL - 30 ~ 80cm
III 褐色土層		粘性ややあり・しまりあり 黄色軽石(As-YPか)を含む地山				GL - 70 ~ 80cm
IV 黄色土層		粘性あり・しまりあり 黄色軽石(As-YP)、白色粒を含む地山				

第3図 基本堆積土層 柱状図



第4図 遺跡全体図(1/250)

0 1:250 10m

V 調査の成果

発掘調査の結果、竪穴住居 21 軒、竪穴状遺構 1 基、土坑 4 基を検出した。竪穴住居は、調査区全体から密に検出され、特に西側にて重複が激しい。カマドが確認された竪穴住居は 9 軒であるが、4 軒が北側にカマドが設置されている。地形は北西から南東に傾斜し、遺構確認時における調査区内での高低差は 1.8m である。旧地形はこれ以上に勾配があったと推測され、住居は南東方向に下がる斜面に建てられている。

竪穴住居

1号住居（第 5 図 PL2・3）

調査区中央東側にて検出された。13、14 号住居と重複関係にあり、本遺構が一番古い。重複による破壊が著しく、詳細は不明であるが、規模は東西 1.85m 以上、南北 61cm 以上である。カマドは確認されなかった。床面は平坦に整えられ、床面から No. 1、2 が、掘り方から No. 3 が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、5 世紀後半から 6 世紀初頭頃であると考えられる。

2号住居（第 6 図 PL2・8）

調査区南西隅にて検出された。8、11 号住居と重複関係にあり、本遺構が一番古い。規模は、重複および西、南側が調査区外になる為、詳細は不明であるが、東西 1.89m 以上、南北 1.97m 以上である。カマドは住居北側に設置され、袖は地山褐色粘土を貼り付けて構築されている。燃焼部は住居北壁を約 60cm 造り出して設置されている。床面からは No. 9 が潰れた状態で出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7 世紀前半頃であると考えられる。

3号住居（第 7 図 PL2）

調査区西側にて検出された。4、5、7 号住居と重複関係にあり、本遺構が一番古い。重複による破壊が著しい為、詳細は不明であるが、規模は東西 1.22m 以上、南北 2.55m 以上である。カマドは確認されなかった。遺物は覆土中から土師器片が少量出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7 世紀後半以前であると考えられる。

4号住居（第 9 図 PL2）

調査区北西側にて検出された。3、5、8、21 号住居と重複関係にあり、3 号住居より新しく、5、8、21 号住居より古い。規模は重複による破壊が著しく詳細は不明であるが、東西 4.85m、南北 3.50m 以上である。カマドは確認されなかった。重複関係から帰属時期は、7 世紀後半以前であると考えられる。

5号住居（第 7 図 PL2・8）

調査区西側にて検出された。3、4、7、8 号住居と重複関係にあり、3、4 号住居より新しく、7、8 号住居より古い。重複による破壊が著しく詳細は不明であるが、規模は東西 2.47m 以上、南北 2.02m 以上で、床面は平坦に整えられており、灰が部分的に少量散っている。カマドは確認されなかった。遺物は覆土中から No. 10 が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7 世紀代であると考えられる。

6号住居（第 12 図 PL2）

調査区西側にて検出された。9、12 号住居と重複関係にあり、本遺構が一番古い。ほとんどが 9 号住居との重複により破壊されている為、詳細は不明であるが、規模は、東西 49cm 以上、南北 2.15m 以上である。床面は平坦に整えられているが、顕著な硬化面は確認されなかった。また、カマドも確認されなかった。重複関係から帰属時期は、7 世紀後半以前であると考えられる。

7号住居（第8図 PL3・8）

調査区南西側にて検出された。3、5号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。ほとんどが調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は、東西3.94m、南北1.22m以上である。床面は平坦に整えられているが、顕著な硬化面は確認されなかった。また、カマドも確認されなかった。遺物は、床面からNo.11、12が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7世紀後半頃であると考えられる。

8号住居（第9・10・11図 PL3・8・9）

調査区西側にて検出された。2、4、5、11、21号住居と重複関係にあり、2、4、5号住居より新しく、11、21号住居より古い。規模は東西5.56m、南北4.47m以上で、床面は平坦に整えられており、全体的に硬く締まっている。カマドは住居北側に設置され、両袖にはNo.19～21が逆位で構築材として使用され、No.16～18が焚口付近で横位の重なった状態で検出された。支脚には礫が使用され、底面には灰層が確認された。カクランにより破壊されているが、東壁に旧カマドと考えられる掘り込みも検出された。遺物は床面からNo.15、22、23が、掘り方からNo.13、14が出土した。北東隅に深さ18cmの貯蔵穴が確認された。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7世紀後半頃であると考えられる。

9号住居（第12図 PL3・4・9）

調査区西側にて検出された。6、12、15、16、20号住居と重複関係にあり、6号住居より新しく、12、15、16、20号住居より古い。15、16号住居より深い為カマド周辺は残存している。規模は東西5.28m、南北4.97mで、床面は平坦に整えられておりカマド前面から中央付近まで硬く締まっている。カマドは住居北側に設置され、壁を約60cm造り出して構築されている。遺物は、床面からNo.24～27、29、30が、覆土からNo.28が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7世紀後半頃であると考えられる。

10号住居（第13図 PL2・4・9）

調査区東側にて検出された。13、14、17号住居と重複関係にあり、本遺構が一番古い。重複および攪乱による破壊が著しい為、詳細は不明であるが、規模は東西3.35m、南北1.40cm以上である。カマドは確認されなかった。遺物は、床面からNo.31、32が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7世紀後半から8世紀前半頃であると考えられる。

11号住居（第14図 PL4・10）

調査区南西端にて検出された。2、8号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。規模は東西3.57m、南北1.74m以上で、床面は平坦に整えられておりカマド前面部分が硬く締まっている。カマドは住居北側に設置され、煙道部は住居外側に位置する。両袖は暗褐色土と地山黄色粘土の混土で構築されている。燃焼部奥にNo.42の甕が逆位で検出され、No.41、43の甕が潰れた状態で出土した。床面からはNo.38～40が出土し、カマド左袖横からは菰網石と考えられる長楕円の礫が7個出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、8世紀前半頃であると考えられる。

12号住居（第15図 PL4・5・10）

調査区北西側にて検出された。6、9号住居、3号土坑と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。規模は東西3.83m、南北1.75m以上で、床面は平坦に整えられておりカマド前面から中央付近まで硬く締まっている。カマドは住居東側に設置され、袖は地山黄色粘土を貼り付けて構築されている。燃焼部は住居壁外に位置し、底面には灰層が認められた。遺物は、床面からNo.44～46、48～51が、覆土からNo.47が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、7世紀後半から8世紀前半頃であると考えられる。

13号住居（第5図 PL2・8）

調査区東側にて検出された。1、10、14号住居と重複関係にあり、1、10号住居より新しく、14号住居より古い。重複および攪乱による破壊が著しい為、詳細は不明であるが、規模は東西3.45m、南北2.95以上である。カマドは確認されなかった。遺物は、床面からNo.4出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、8世紀代であると考えられる。

14号住居（第5図 PL2・5・8）

調査区南東側にて検出された。1、10、13号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。規模は東西5.19m、南北2.28m以上で、床面は平坦に整えられており、カマド前面から住居中央付近がやや硬く締まっている。カマドは住居東側に設置され、燃焼部は住居壁外に位置している。カマド前には灰、炭化物粒の分布がみられる。遺物は、覆土からNo.5、7、8が、掘り方からNo.6が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、8世紀後半頃であると考えられる。

15号住居（第16図 PL5・10）

調査区中央北西側にて検出された。9、16号住居と重複関係にあり、9号住居より新しく、16号住居より古い。16号住居より深い為、破壊は僅かで、西壁は残存している。規模は東西2.85m、南北2.43m以上で、床面は平坦に整えられており、カマド前面がやや硬く締まっている。カマドは住居東側に設置され、燃焼部は住居壁外に位置している。遺物は、床面からNo.52が、覆土中からNo.53が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、9世紀前半から中頃であると考えられる。

16号住居（第17・18図 PL5・10）

調査区中央北西側にて検出された。9、15号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。規模は東西3.55m、南北1.60m以上で、床面は平坦に整えられており、カマド前面から中央付近までがやや硬く締まっている。カマドは住居東側に設置され、燃焼部は住居壁外に位置している。遺物は、カマド前の床面からNo.54、55、59～60が散乱した状態で出土し、南西側の床面からNo.56～58が出土した。また、カマド前面の掘り方からNo.61が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、9世紀中から後半頃であると考えられる。

17号住居（第13図 PL6・9）

調査区東側にて検出された。10号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は東西3.23m、南北3.19mで、床面は平坦に整えられており、カマド前から住居中央付近はやや硬化している。カマドは住居東側に設置されているが、ほとんどが攪乱により破壊されている為、詳細は不明である。遺物は、カマド前からNo.36が潰れた状態で出土し、覆土からNo.33、37が、掘り方からNo.34、35が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、9世紀後半頃であると考えられる。

18号住居（第18図）

調査区中央南側にて検出された。19、20号住居と重複関係にあり、本遺構が一番古い。重複による破壊が著しく、ほとんどが調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は東西2.53m以上、南北48cm以上である。カマドは確認されなかった。遺物は覆土中から土師器片が少量出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、9世紀後半以前であると考えられる。

19号住居（第18図 PL6）

調査区中央南側にて検出された。18、20号住居と重複関係にあり、18号住居より新しく、20号住居より古い。重複による破壊が著しく、ほとんどが調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は東西1.55m以上、南北68cm以上である。カマドは確認されなかった。遺物は覆土中から土師器片が少量出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、9世紀代であると考えられる。

20号住居（第20・21図 PL6・11）

調査区中央南側にて検出された。9、18、19号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。規模は東西3.71m、南北94cm以上で、床面は平坦に整えられており、カマド前面がやや硬く締まっている。カマドは住居東側に設置され、燃焼部は住居壁外に位置されている。被熱が少なく、壁の焼土化も弱い。遺物は、覆土からNo.62～67出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、9世紀後半頃と考えられる。

21号住居（第22図 PL6・11）

調査区北西端にて検出された。4、8号住居と重複関係にあり、本遺構が一番新しい。大部分が調査区外になる為詳細は不明であるが、規模は東西4.54m、南北1.48m以上で、床面は平坦に整えられており全体的に若干硬く締まっている。カマドは確認されなかったが、東壁側の床面に焼土粒および炭化物粒がやや多く分布している為、東側の調査区外にある可能性が考えられる。遺物は床面からNo.68～73が出土し、No.68～70は重なった状態であった。検出された遺物および重複関係から帰属時期は、10世紀前半頃であると考えられる。

竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（第23図 PL7）

調査区中央にて検出された。2号土坑と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は東西4.66m、南北2.35mで、平面は隅丸長方形である。確認面から底面までは約8cmと浅く、底面は比較的平坦である。硬化面および焼土や灰、炭等の分布は認められない。遺物は、覆土中から土師器の小破片が少量出土し、南西隅にて長楕円の菰網石と考えられる礫が9石まとまって出土した。出土遺物も少量の為、帰属時期は不明である。

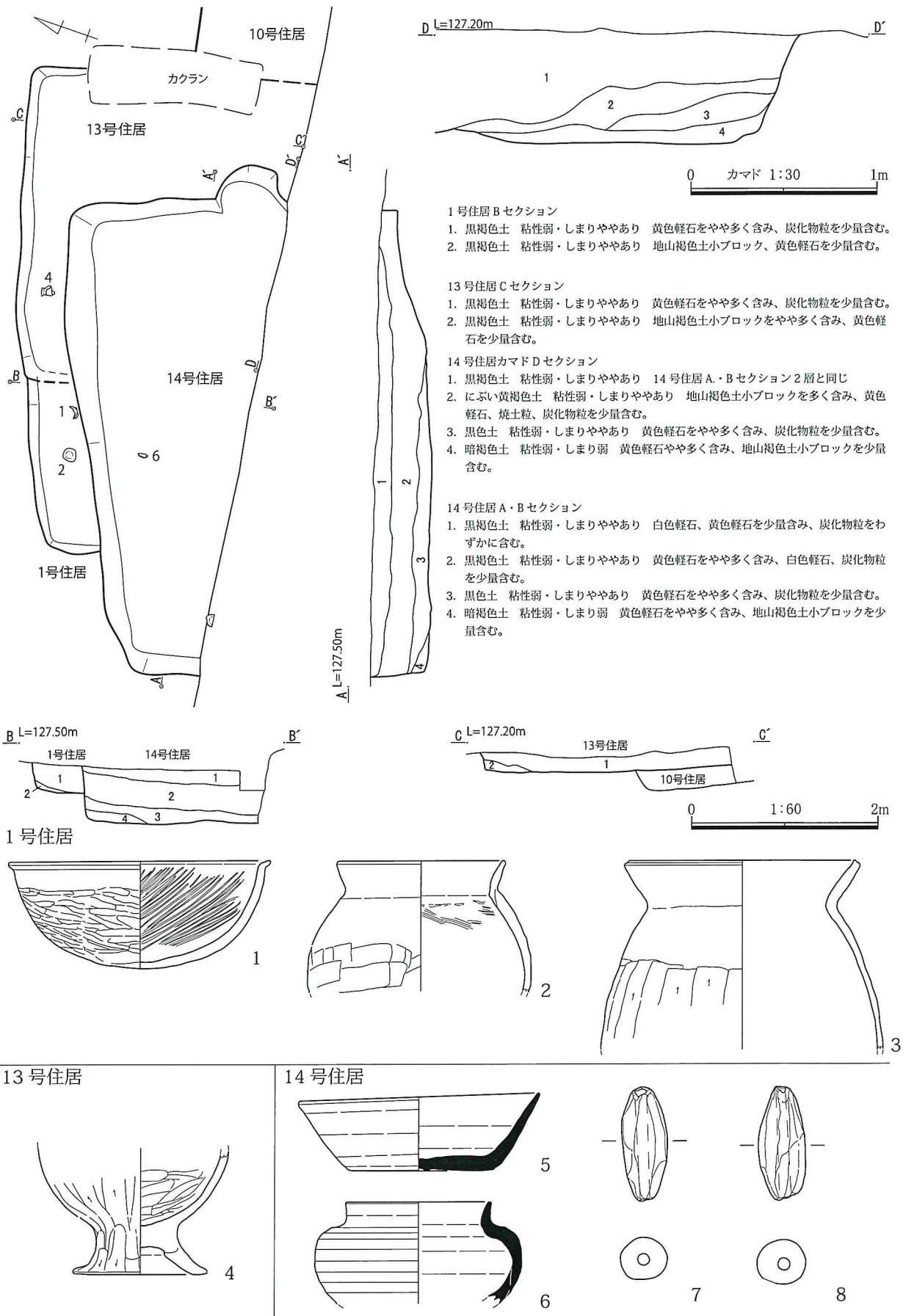
土坑（第24・25・26・27図 PL7・11）

1号土坑は調査区北側にて検出された。一部調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は東西2.15m、南北1.56m以上である。確認面から底面までは約18cmと浅く、底面は比較的平坦である。硬化面および焼土や灰、炭等の分布は認められない。遺物は、確認面にてNo.74が、底面近くからNo.75・76・77～79が出土した。出土した遺物から帰属時期は、5世紀後半から6世紀前半頃と考えられる。

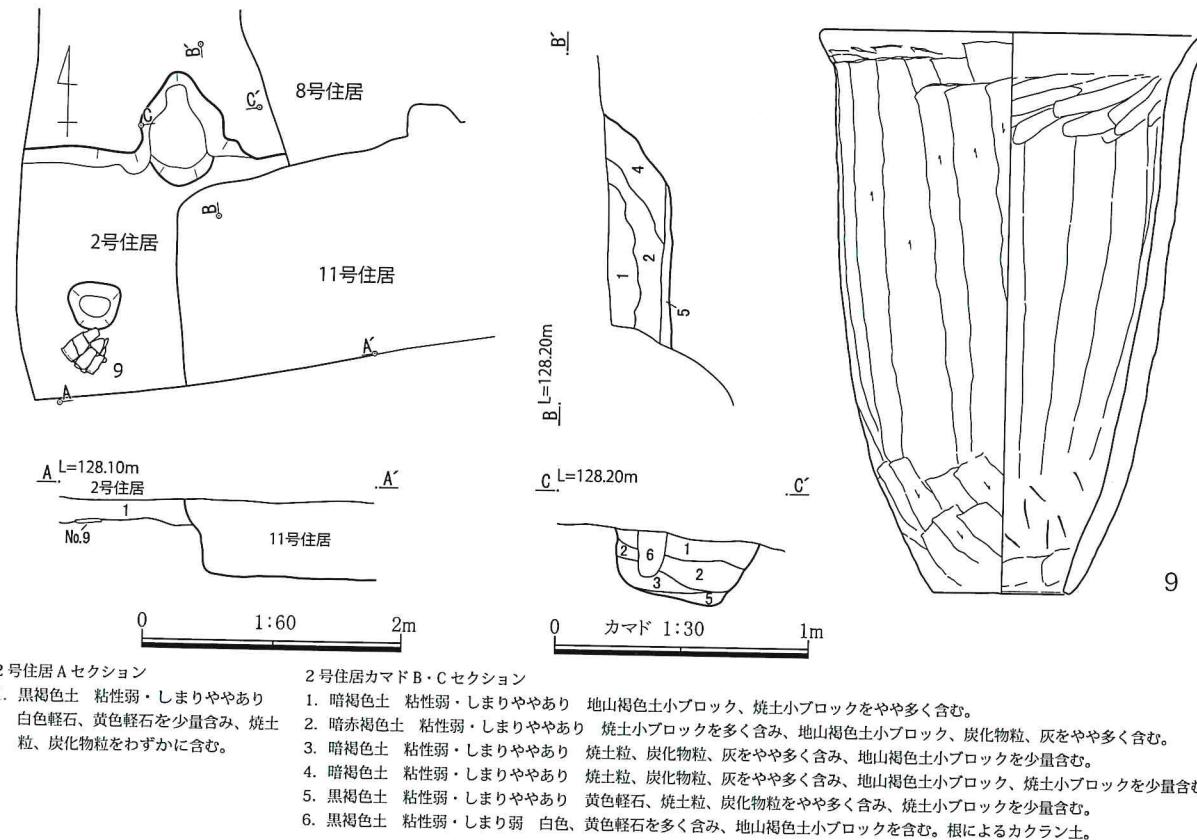
2号土坑は調査区中央付近にて検出された。1号竪穴状遺構と重複関係にあり、本遺構の方が古い。規模は東西1.05m、南北1.46mである。確認面から底面までは約55cmと深く、底面には窪みが2つ確認された。遺物は、覆土よりNo.80が出土した。

3号土坑は調査区北側にて検出された。12号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。ほとんどが調査区外になる為、詳細は不明であるが、規模は東西1.73m以上、南北75cm以上である。確認面から底面までは約29cmとやや深く、底面は若干凹凸がある。硬化面および焼土や灰、炭等の分布は認められない。遺物は、底面よりNo.81が出土した。検出された遺物および重複関係から帰属時期は6世紀代であると考えられる。

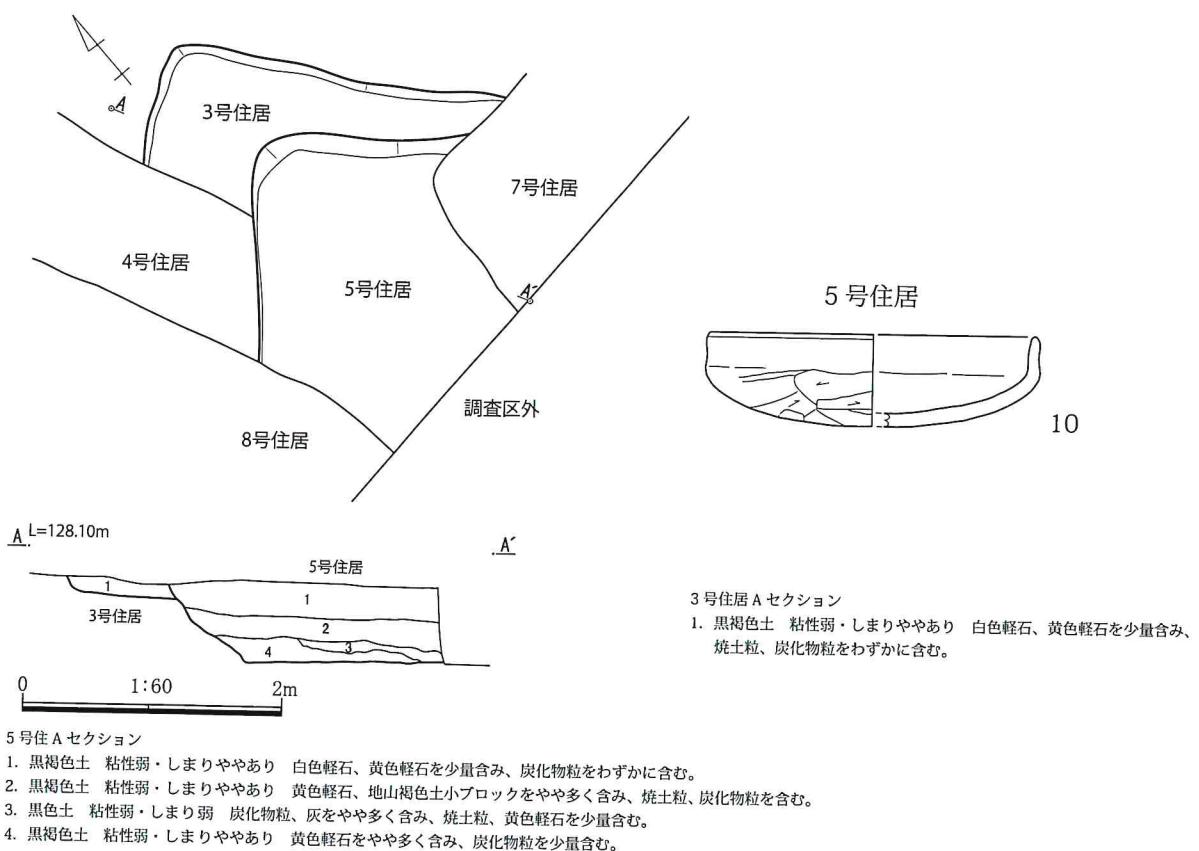
4号土坑は調査区東側にて検出された。規模は径約1.80cmで、平面はほぼ円形である。確認面から底面までは約30cmで、底面は皿状である。遺物は、覆土よりNo.82が出土した。



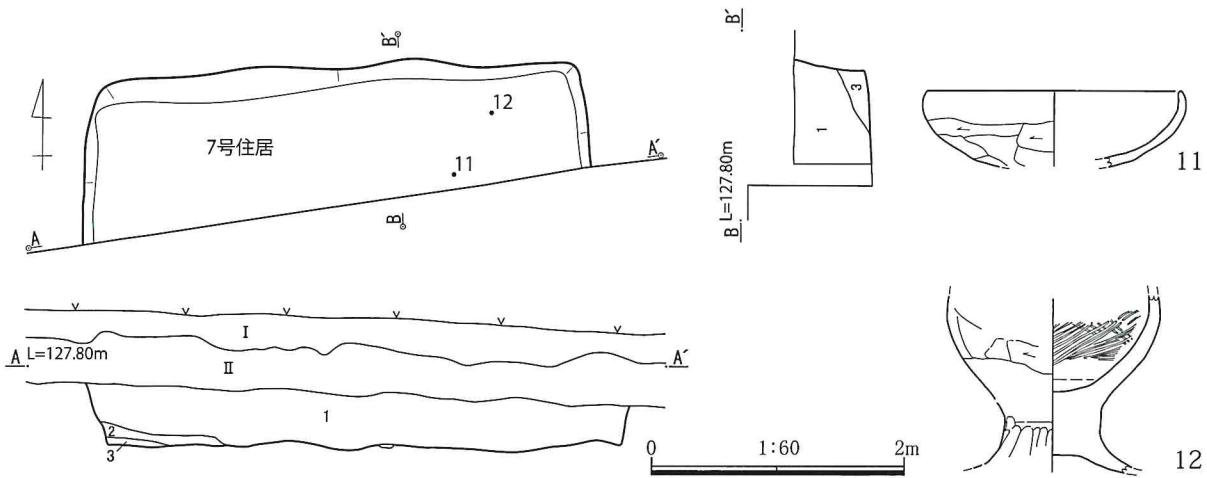
第5図 1・13・14号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30)
出土遺物図 No.7・8 (1/2) No.1・5・6 (1/3) No.2～4 (1/4)



第6図 2号住居 平・断面図(1/60) カマド断面図(1/30) 出土遺物図 No. 9 (1/4)



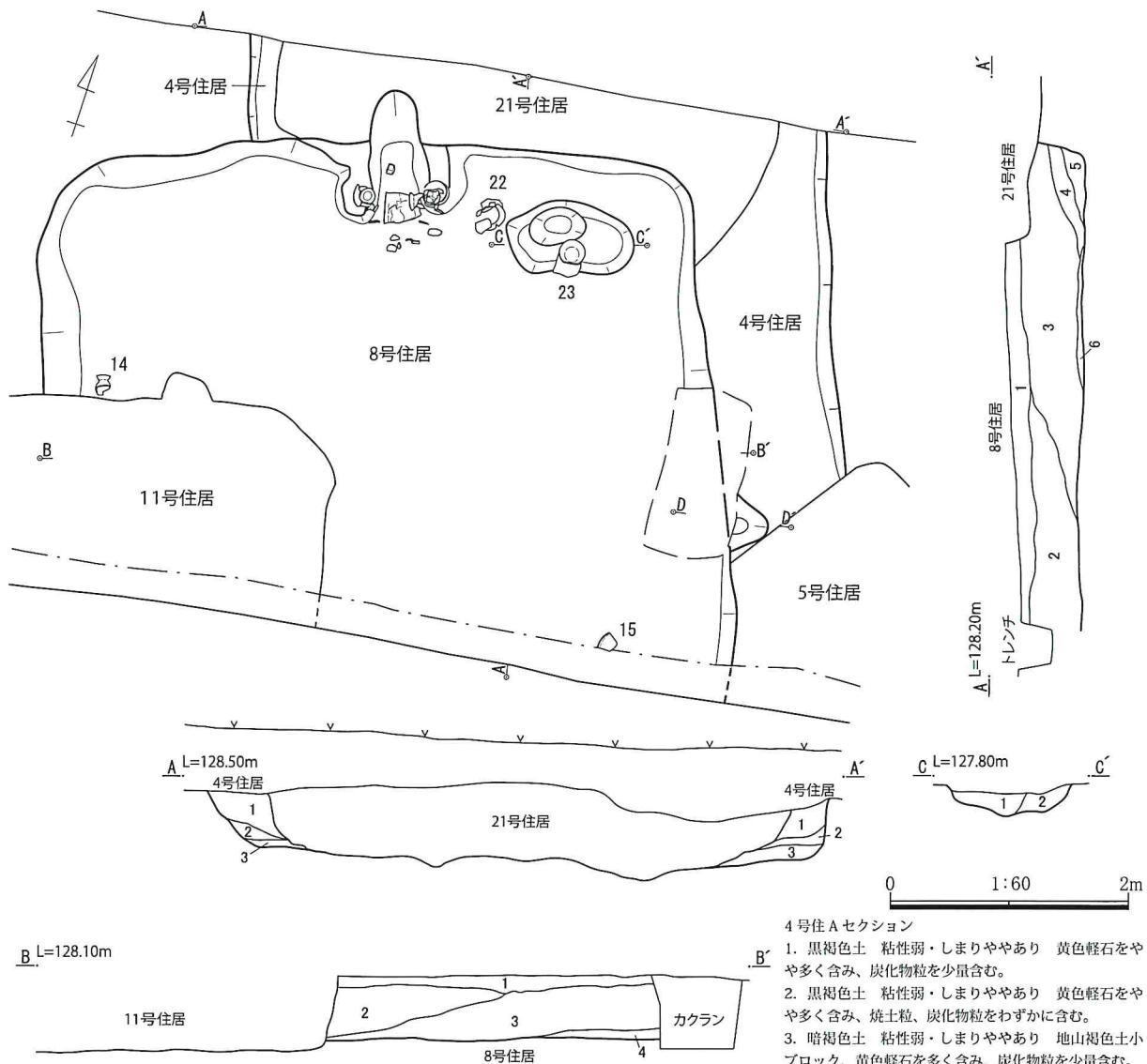
第7図 3・5号住居 平・断面図(1/60) 出土遺物図 No. 10 (1/3)



7号住居A・Bセクション

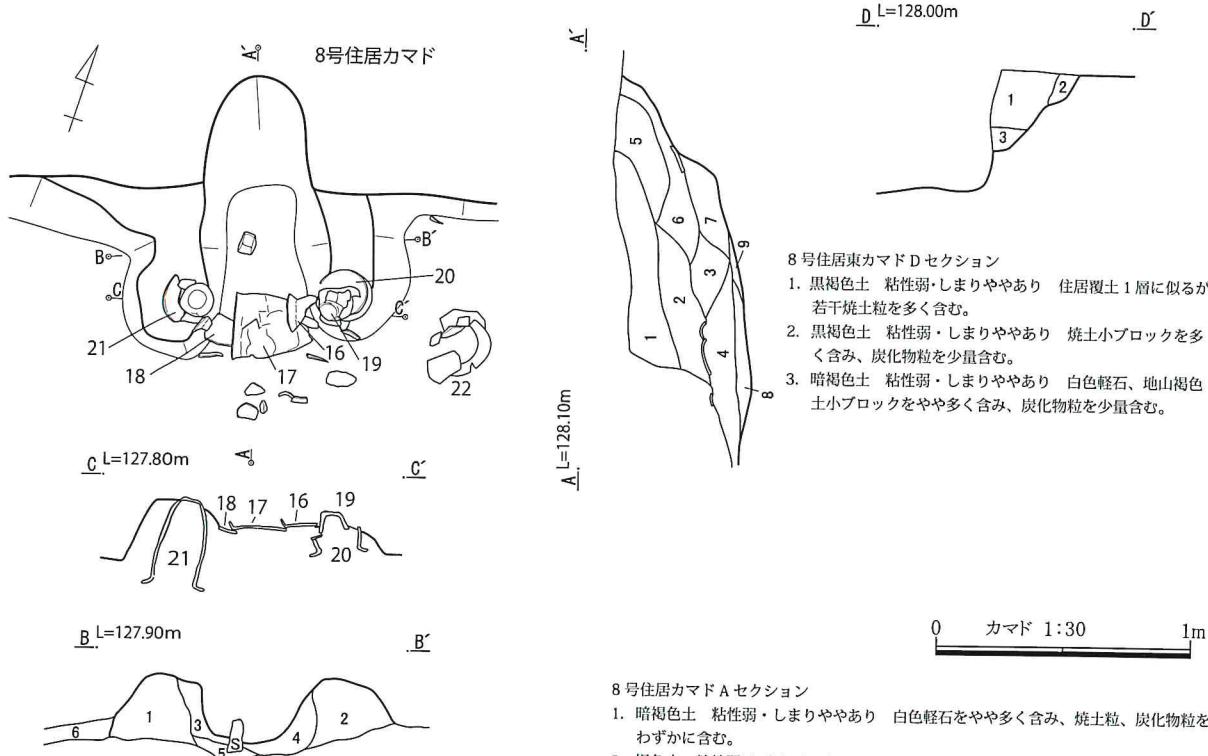
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石を少量含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石、地山褐色土小ブロックを少量含み、炭化物粒をわずかに含む。

第8図 7号住居 平・断面図(1/60) 出土遺物図 №.11(1/3)・12(1/4)

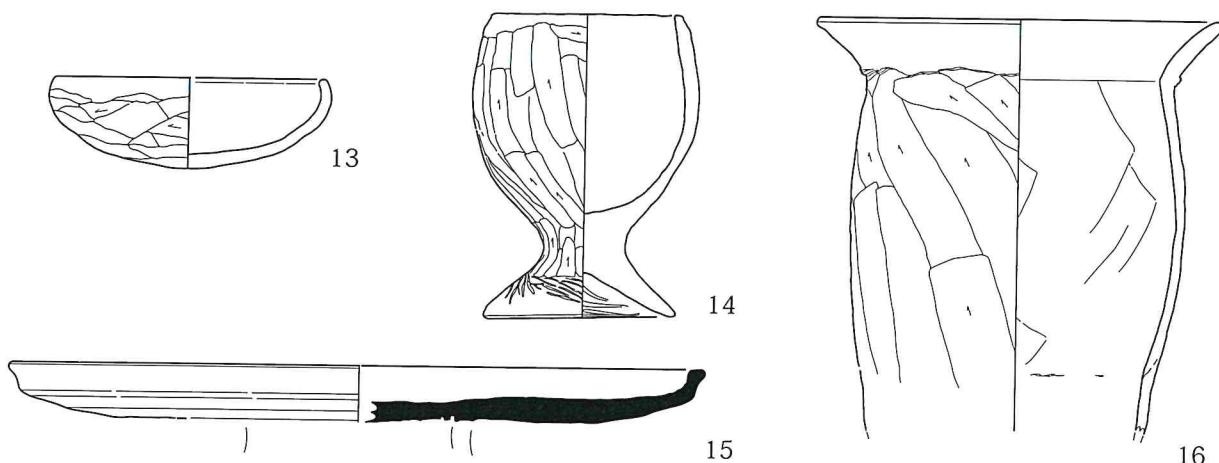


第9図 4号住居 平・断面図(1/60) 8号住居 平・断面図・貯蔵穴断面図(1/60)

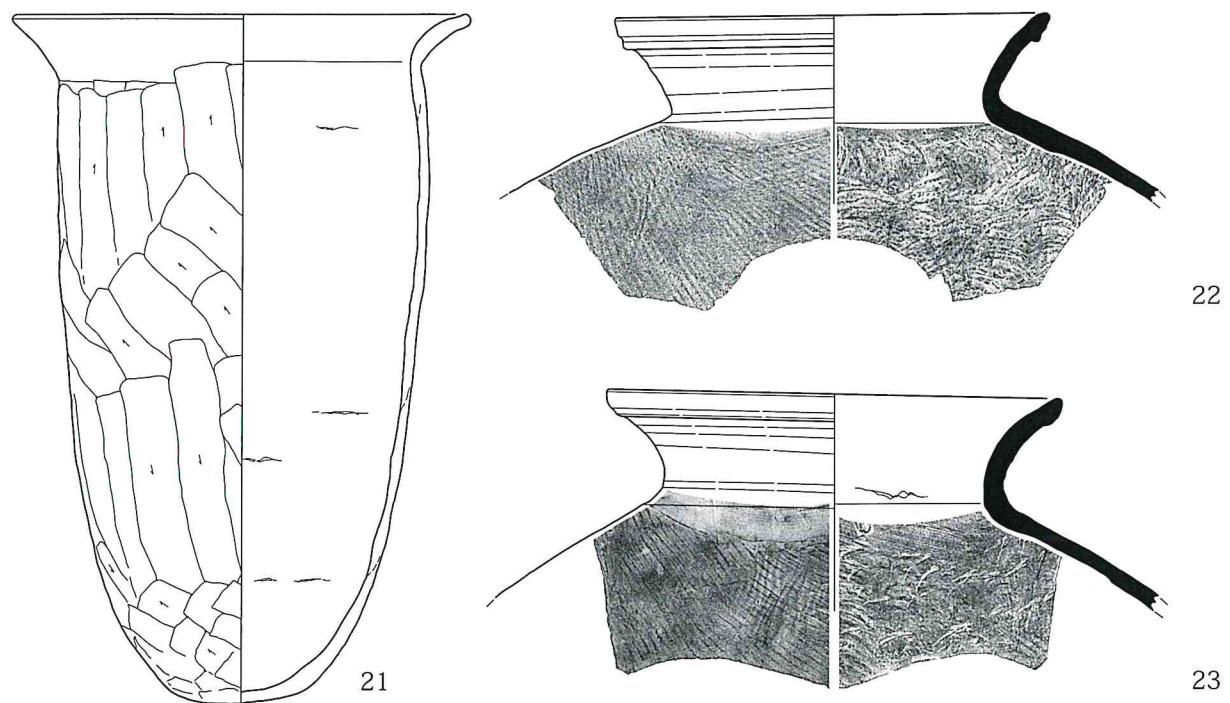
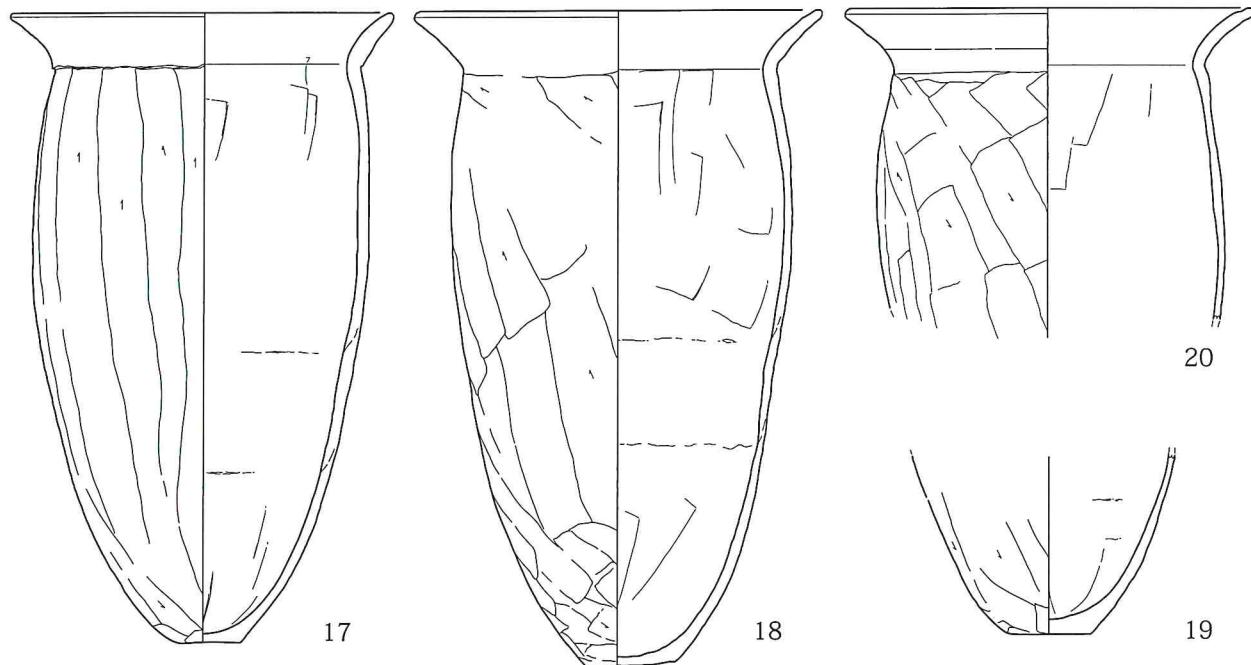
- 8号住居 A・B セクション
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
 2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
 3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石を多く含み、地山褐色土小ブロック、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
 4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石を少量含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
 5. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
 6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石、地山褐色土小ブロックを少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
- 8号住居C セクション
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石、地山褐色土小ブロックを少量含み、炭化物粒を含む。
 2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。



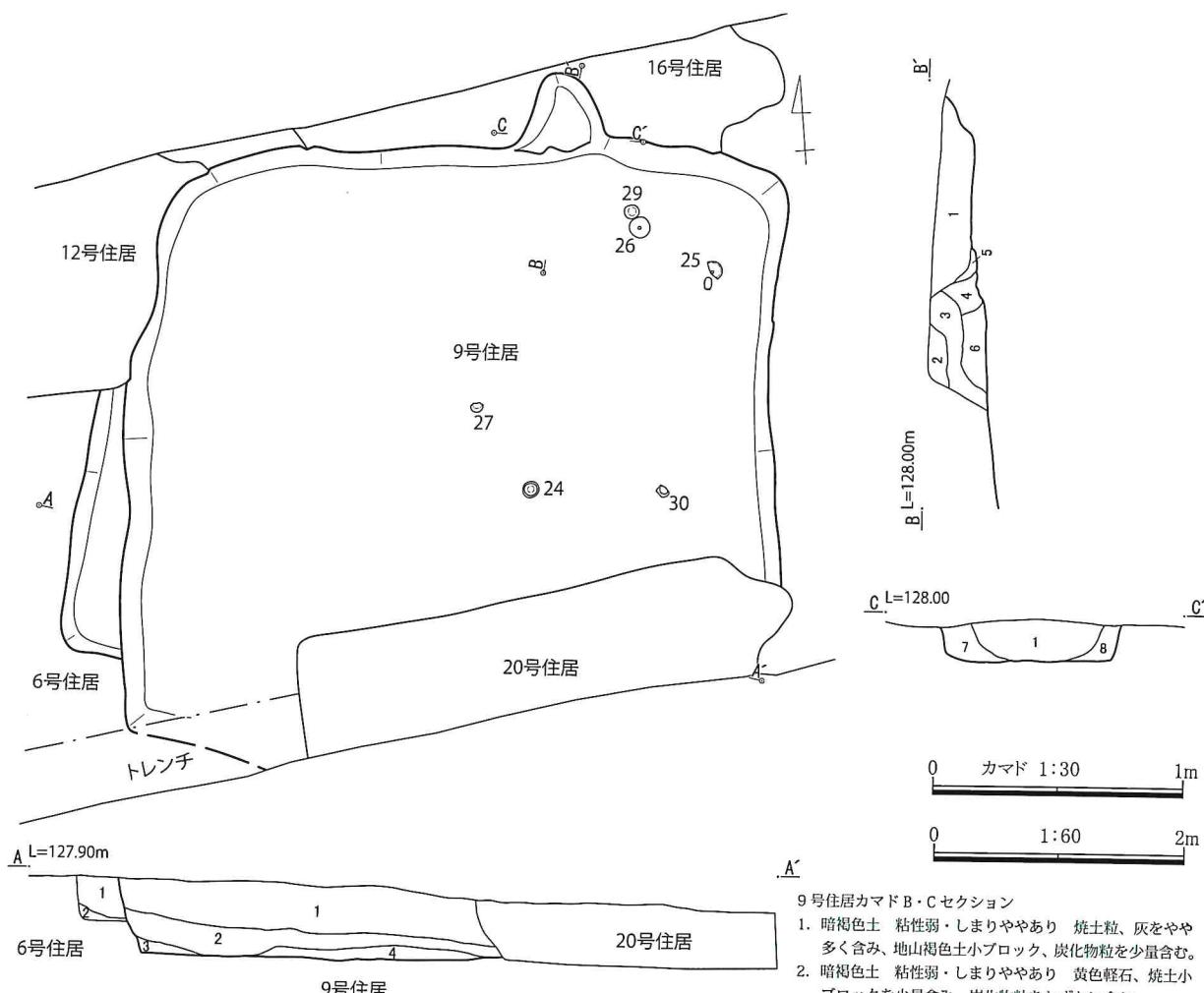
- 8号住居カマド B セクション
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄色土小ブロックを多く含み、焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含む袖構築土。
 2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄色土小ブロックを多く含み、焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含み炭化物粒を少量含む袖構築土。
 3. にぶい赤褐色土 粘性弱・しまりあり 1層が被熱を受け焼土化。焼土小ブロックを多く含む。
 4. にぶい赤褐色土 粘性弱・しまりあり 2層が被熱を受け焼土化。焼土小ブロック、地山黄色土小ブロック多く含む。
 5. 赤褐色土 粘性弱・しまりあり 焼土主体。
 6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色、黄色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
- 8号住居カマド A セクション
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
 2. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
 3. 黄褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄褐色土主体。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
 4. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、焼土粒、炭化物粒、灰を少量含む。
 5. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石をやや多く含み、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
 6. 黄褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山黄褐色土主体。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
 7. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 烧土小ブロックを多く含み、炭化物粒、炭化材を少量含む。
 8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土小ブロック、地山黄褐色土小ブロックを多く含み、炭化物粒、灰をやや多く含む。
 9. 赤褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土主体。Bセクション5層に対応。



第10図 8号住居 カマド平・断面図(1/30) 出土遺物図 №13・15(1/3) №14・16(1/4)



第 11 図 8 号住居 出土遺物図 № 17 ~ 23 (1/4)



6・9号住居 Aセクション

6号住居

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロックを少量含む。

9号住居

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロックを少量含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石、地山褐色土小ブロックを多く含み、炭化物粒を少量含む。

9号住居カマド B・Cセクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒、灰をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石、焼土小ブロックを少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
4. 褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
5. 黄色土 粘性あり・しまりあり 地山黄色粘土主体。
6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石を少量含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土小ブロック、地山黄色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、灰を含む。
8. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。



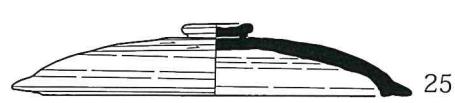
24



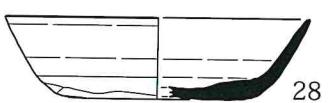
27



29



25



28

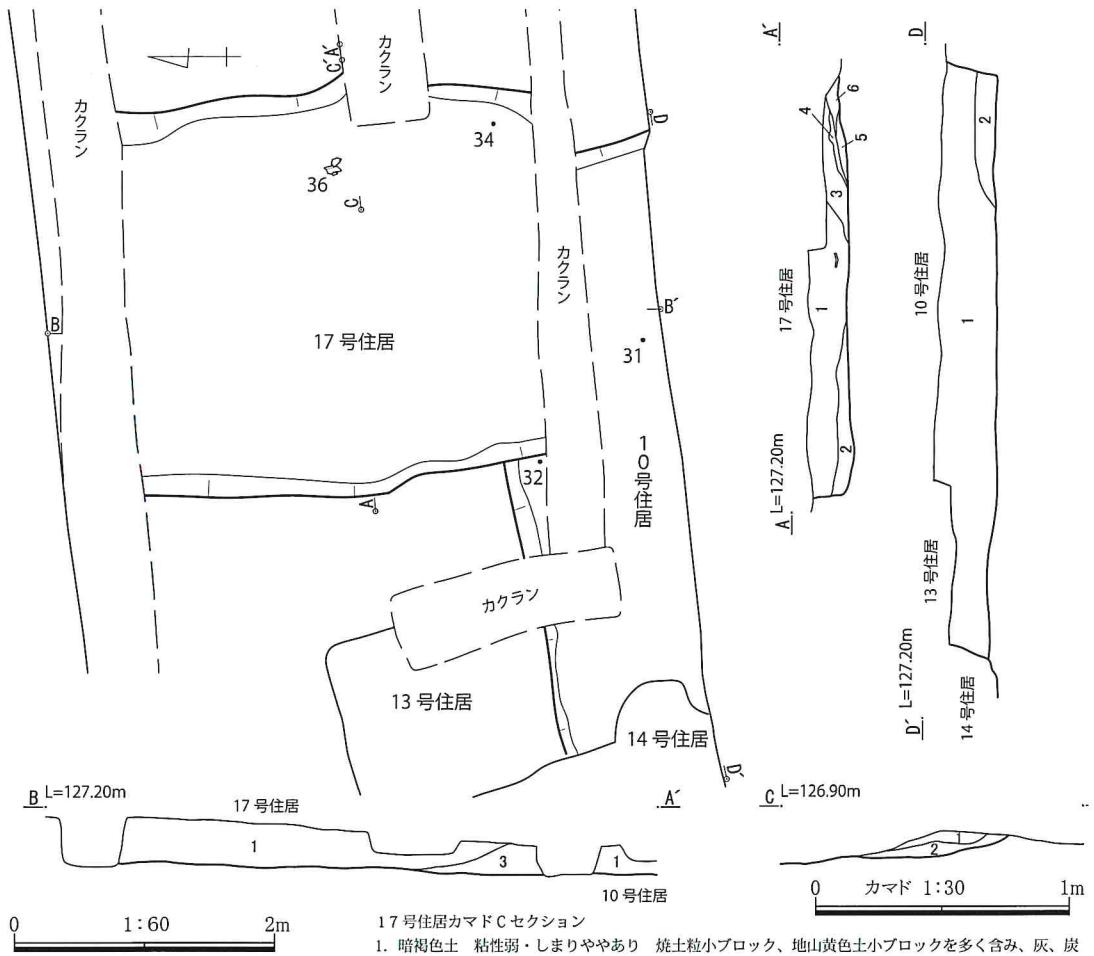


30



26

第12図 6・9号住居 平・断面図(1/60) カマド断面図(1/30) 出土遺物図 №24～30(1/3)

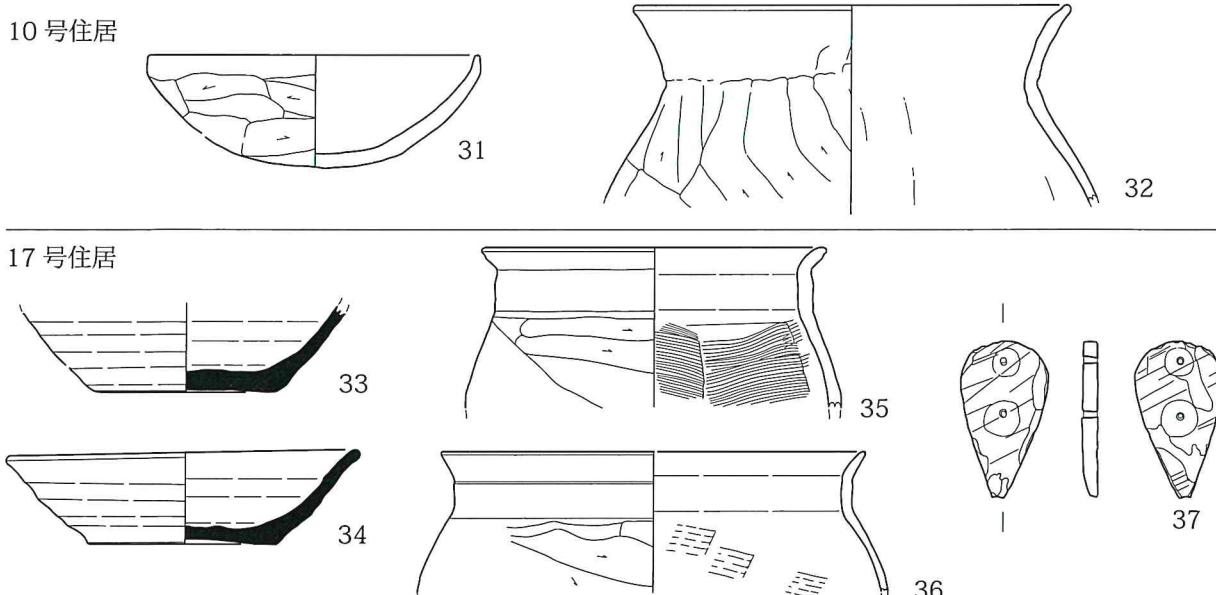


- 17号住居カマドCセクション

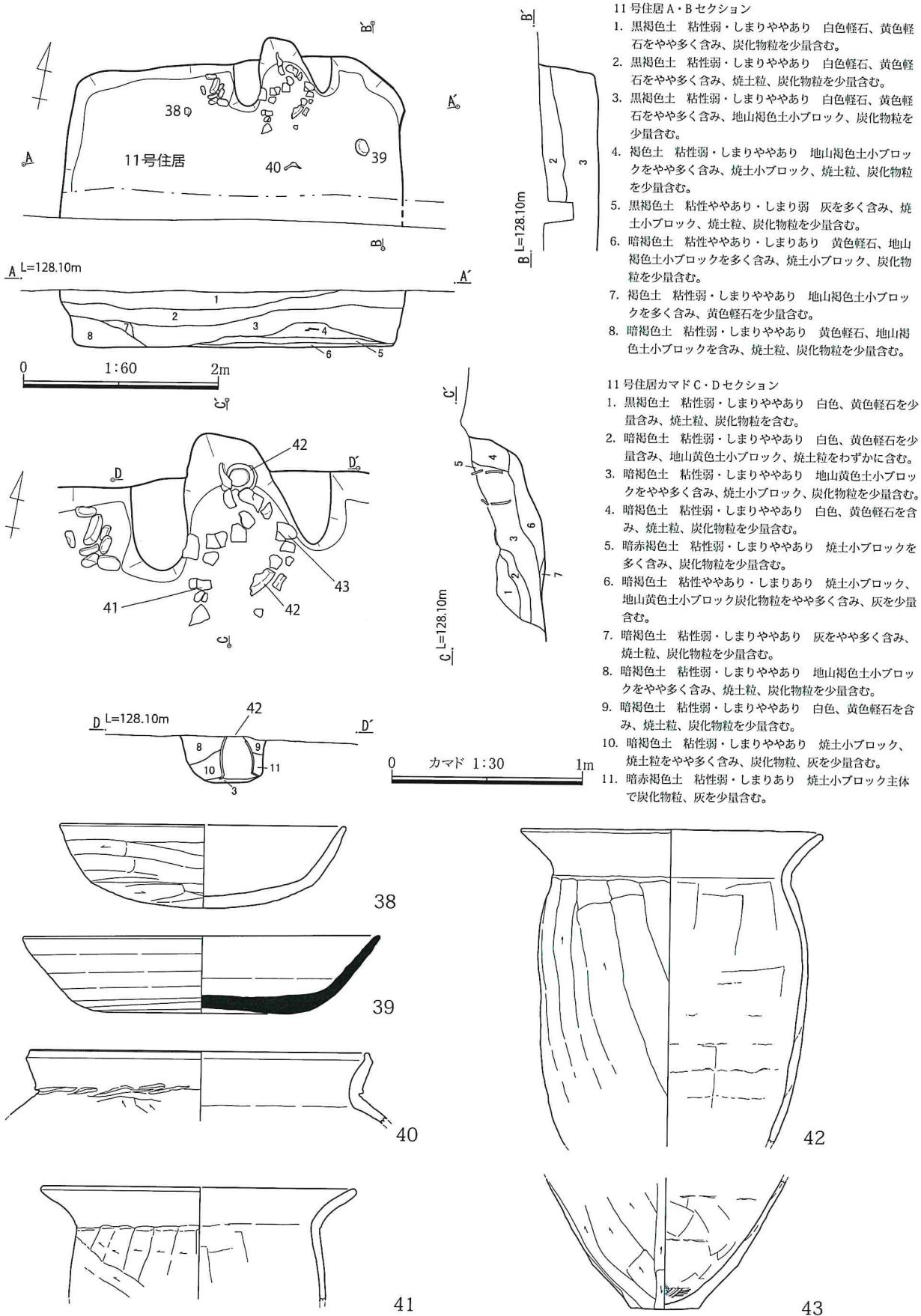
 - 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒小ブロック、地山黄色土小ブロックを多く含み、灰、炭化物粒を含む。
 - 暗灰色土 粘性弱・しまり弱 灰および炭化物粒主体で、焼土粒を少量含む。

17号住居A・Bセクション

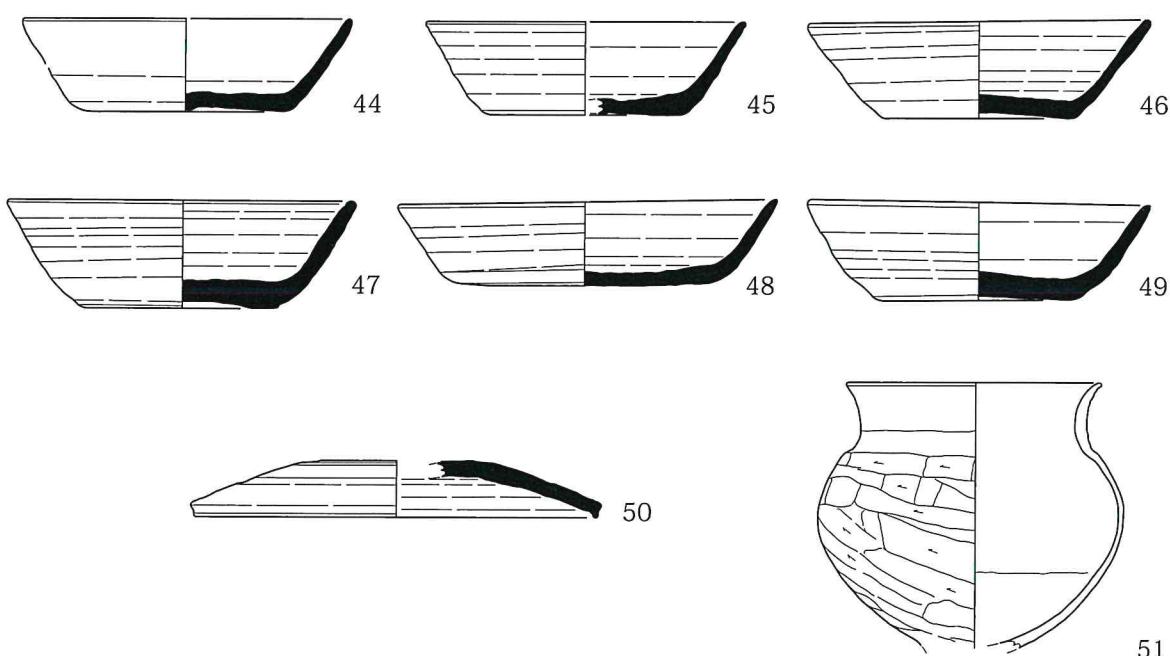
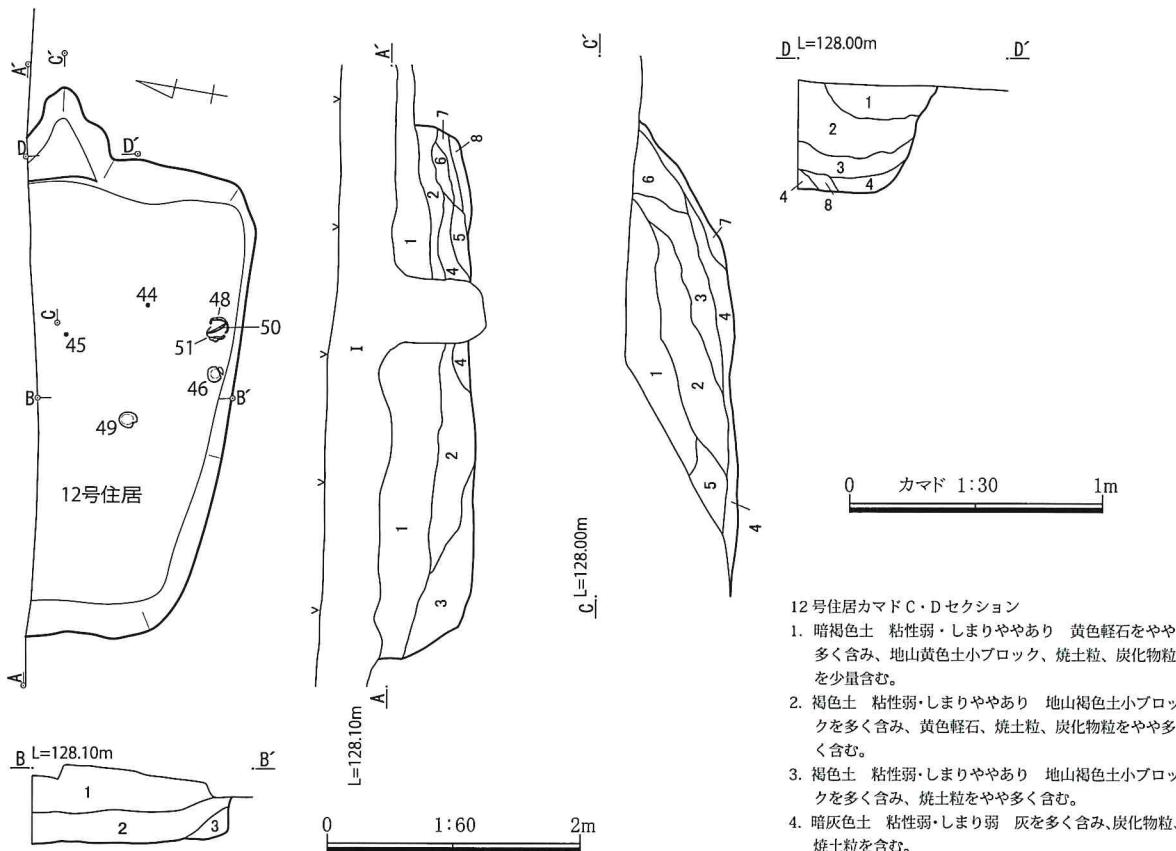
 - 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
 - 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石を少量含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
 - 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土粒をやや多く含み、黄色軽石、炭化物粒を少量含む。
 - 暗赤褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土小ブロックをやや多く含み、灰、炭化物粒を少量含む。
 - 黒灰色土 粘性ややあり・しまり弱 灰を多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。
 - 暗赤褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土小ブロックを多く含み、灰、炭化物粒を少量含む。



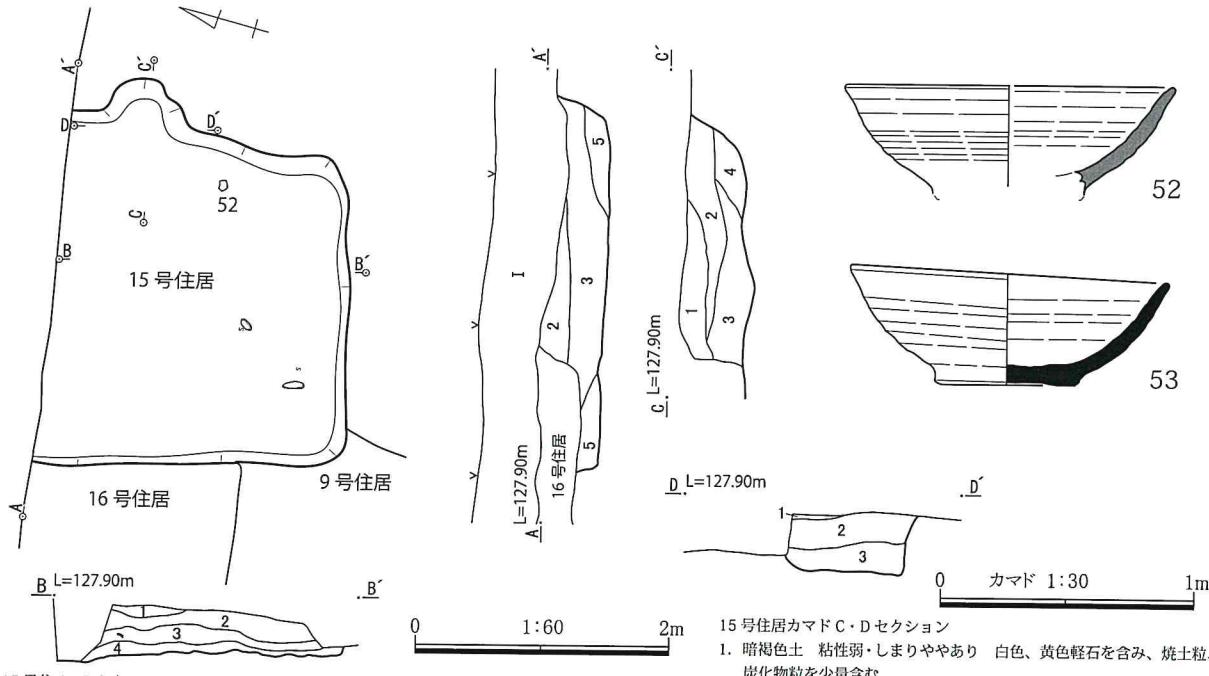
第13図 10・17号住居 平・断面図(1/60) カマド断面図(1/30)
 出土遺物図 №31・33・34(1/3) №32・35・36(1/4) №37(1/2)



第14図 11号住居 平・断面図 (1/60) カマド平・断面図 (1/30)
出土遺物図 №38・39 (1/3) №40～43 (1/4)



第15図 12号住居 平・断面図(1/60) カマド断面図(1/30) 出土遺物図 №.44～50(1/3) №.51(1/4)



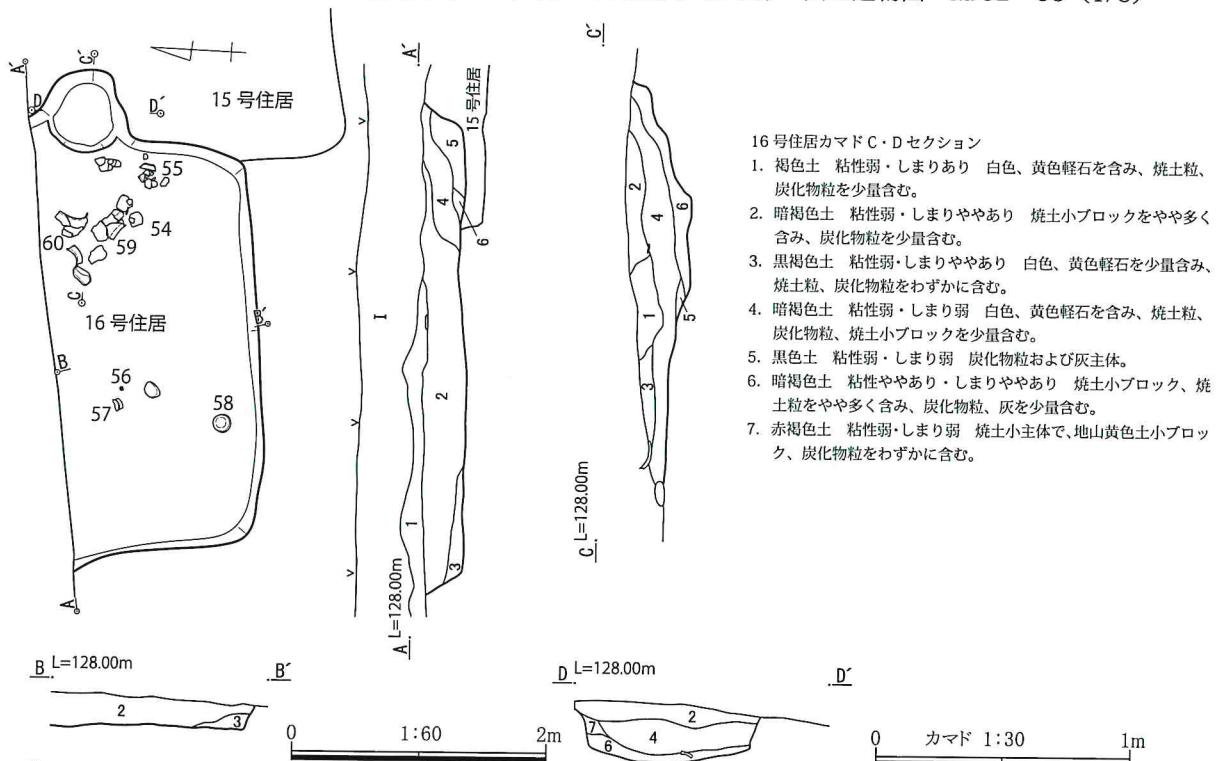
15号住 A・B セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 白色軽石、黄色軽石をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 地山黄色土小ブロックを多く含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒を少量含む。

15号住カマド C・D セクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色、黄色軽石を含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色、黄色軽石を含み、地山褐色土小ブロック、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土小ブロック、焼土粒をやや多く含み、炭化物粒、灰を少量含む。

第16図 15号住居 平・断面図(1/60) カマド断面図(1/30) 出土遺物図 №.52・53 (1/3)



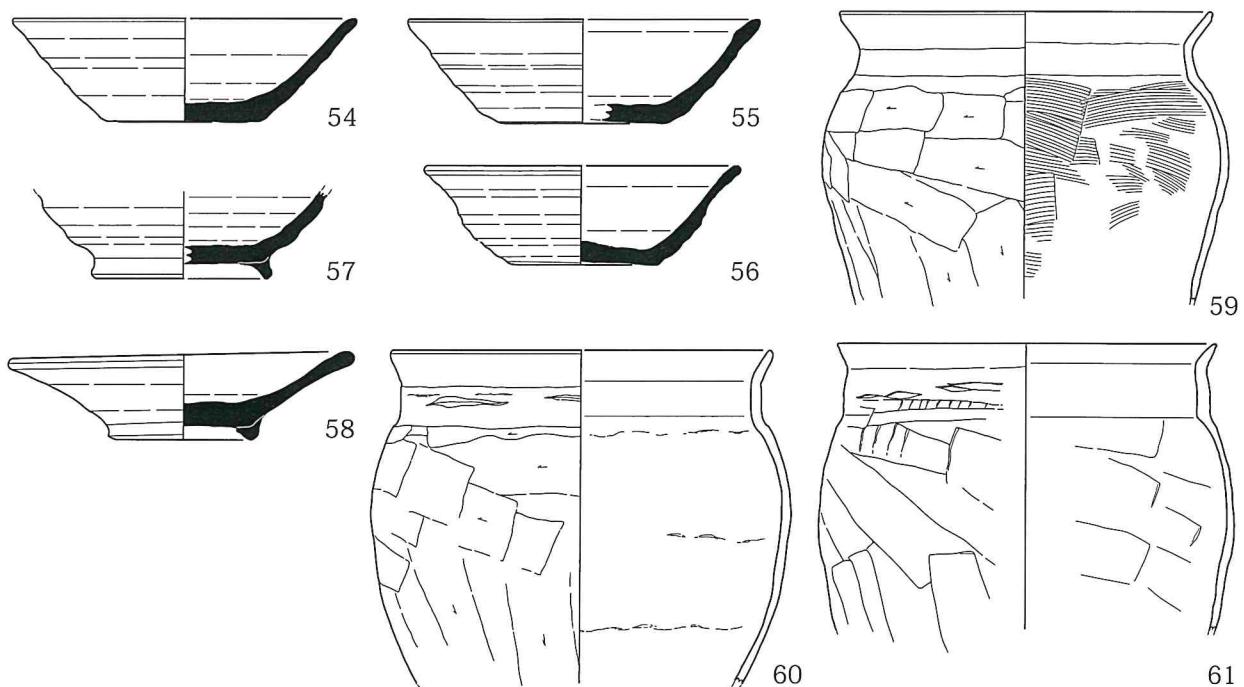
16号住 A・B セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を少量含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色軽石を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
5. 赤褐色土 粘性弱・しまり弱 烧土小主体で、地山黄色土小ブロック、炭化物粒をわずかに含む。
6. 黑褐色土 粘性弱・しまりあり 烧土粒、炭化物粒を少量含む。

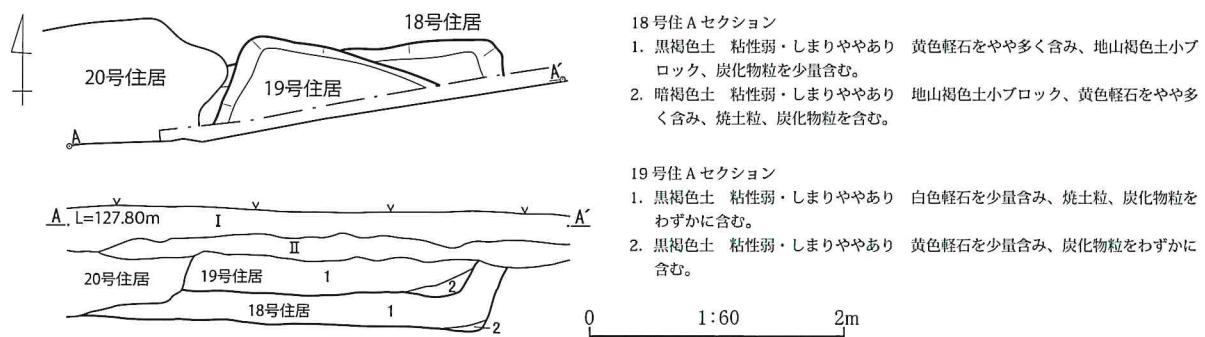
16号住カマド C・D セクション

1. 褐色土 粘性弱・しまりあり 白色、黄色軽石を含み、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 烧土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
3. 黑褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色、黄色軽石を少量含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 白色、黄色軽石を含み、焼土粒、炭化物粒、焼土小ブロックを少量含む。
5. 黑色土 粘性弱・しまり弱 炭化物粒および灰主体。
6. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 烧土小ブロック、焼土粒をやや多く含み、炭化物粒、灰を少量含む。
7. 赤褐色土 粘性弱・しまり弱 烧土小主体で、地山黄色土小ブロック、炭化物粒をわずかに含む。

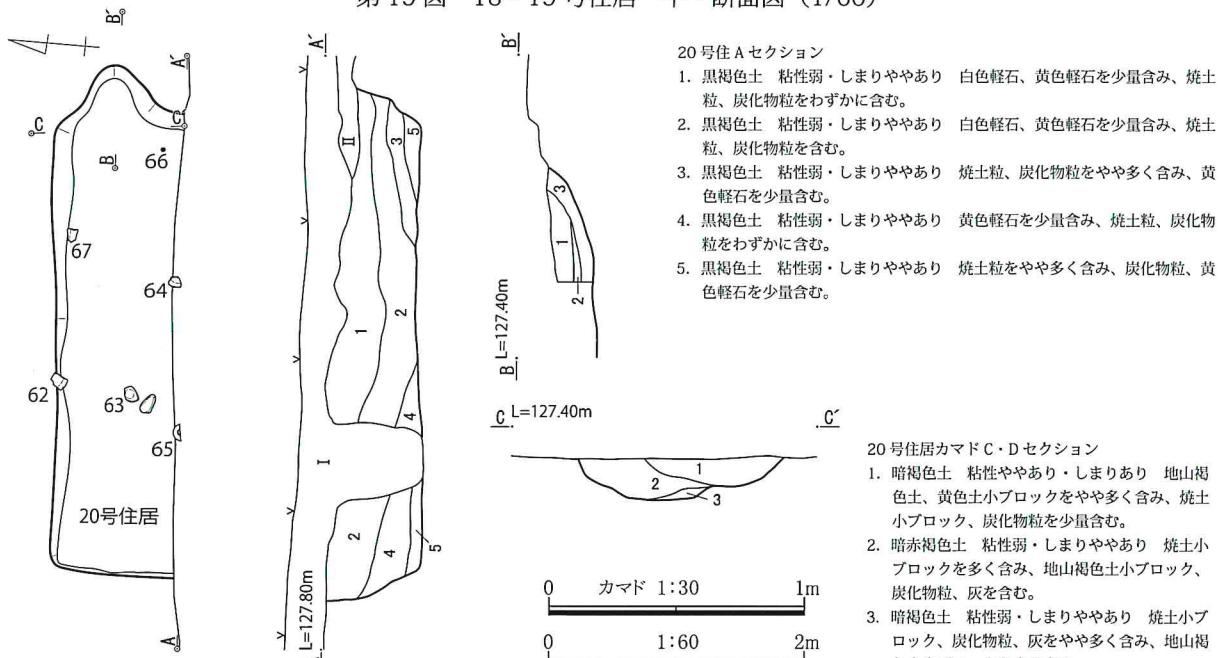
第17図 16号住居 平・断面図(1/60) カマド断面図(1/30)



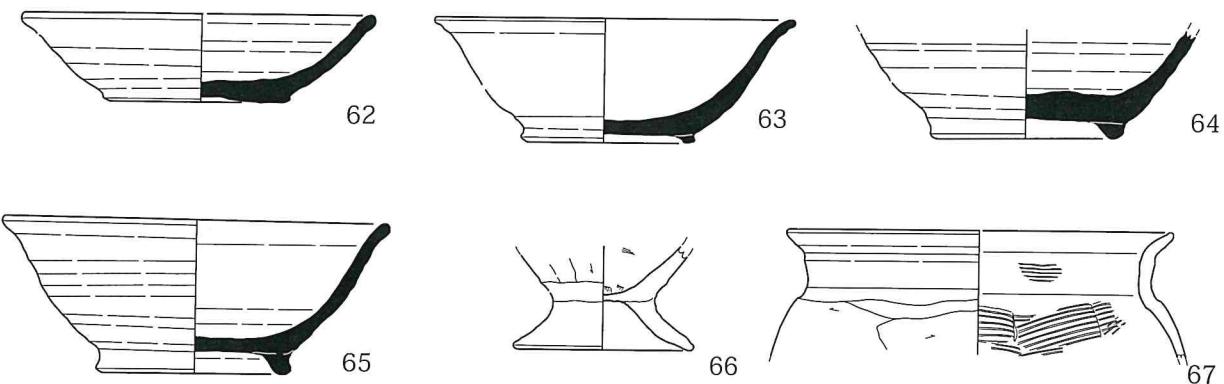
第18図 16号住居 出土遺物 №54～58 (1/3) №59～61 (1/4)



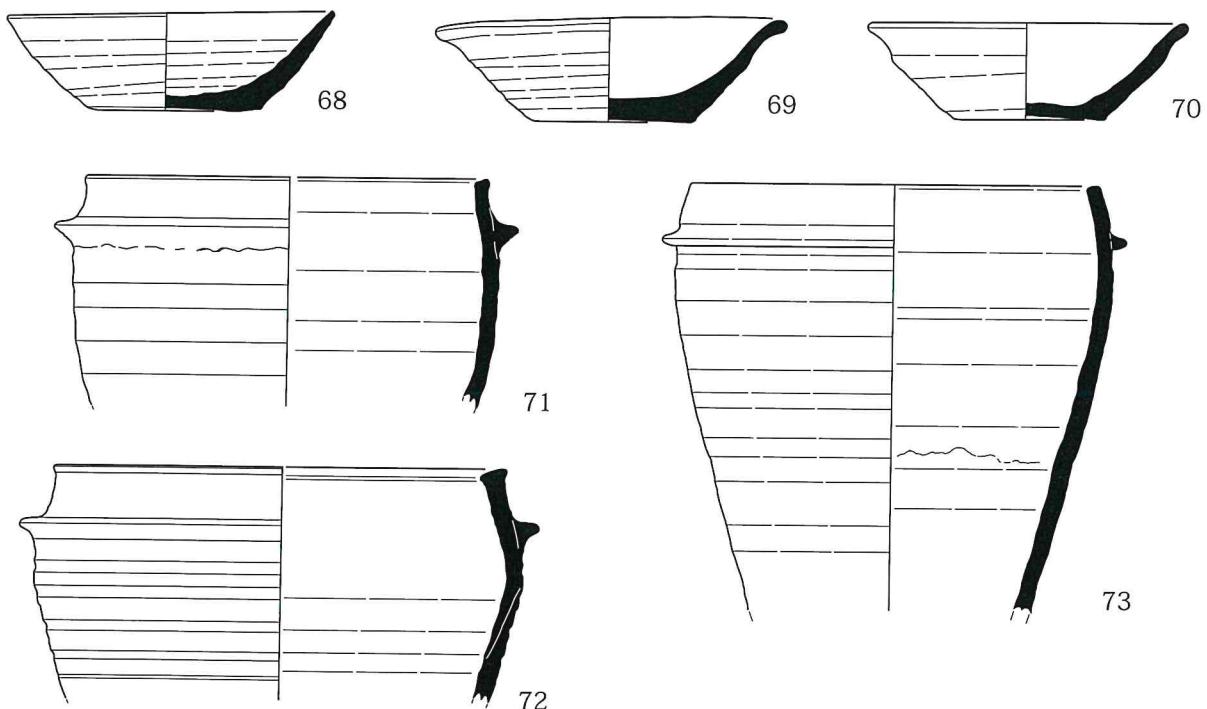
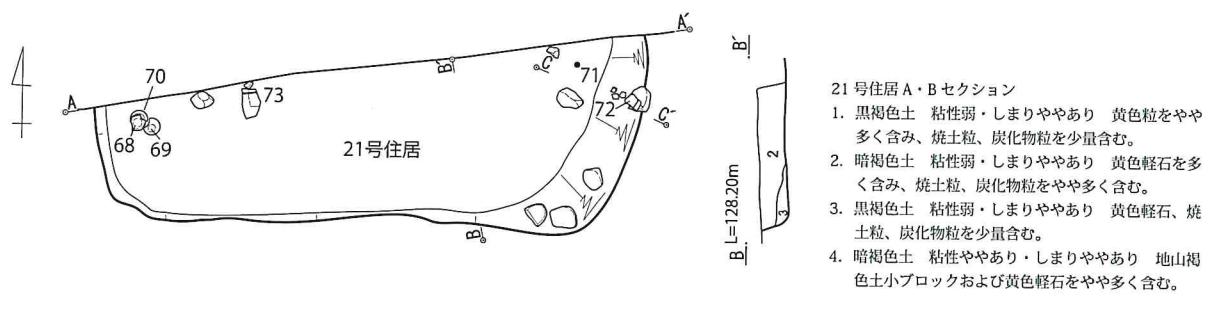
第19図 18・19号住居 平・断面図 (1/60)



第20図 20号住居 平・断面図 (1/60) カマド断面図 (1/30)

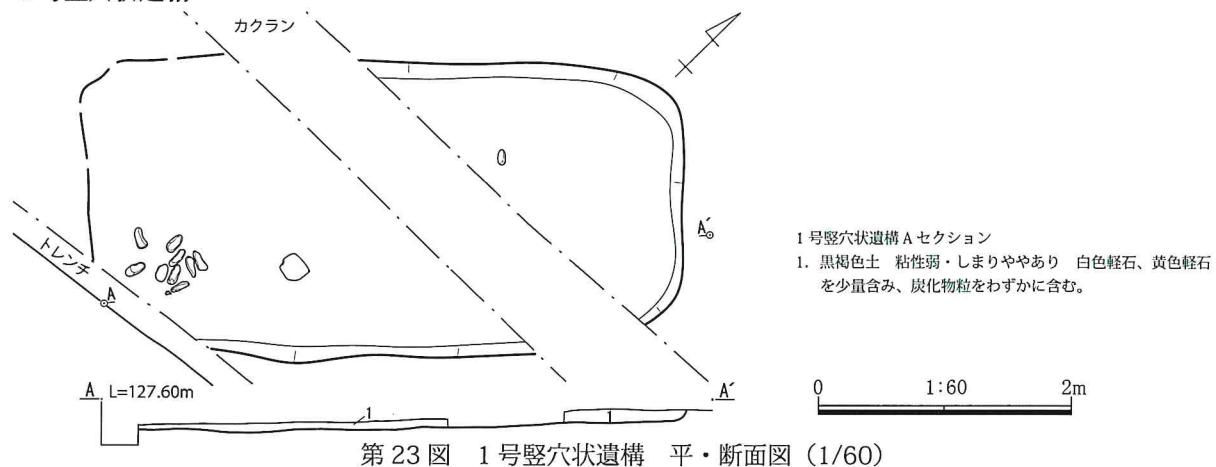


第21図 20号住居 出土遺物図 №62～65 (1/3) №66・67 (1/4)

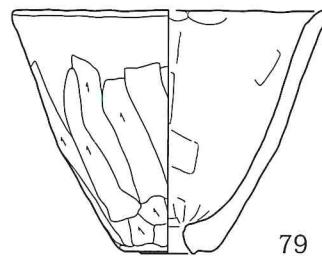
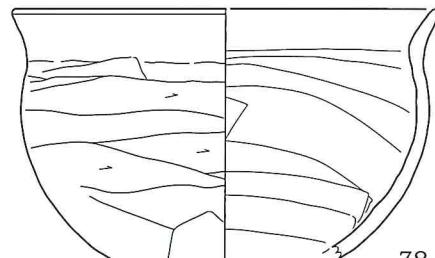
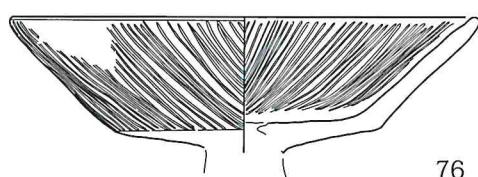
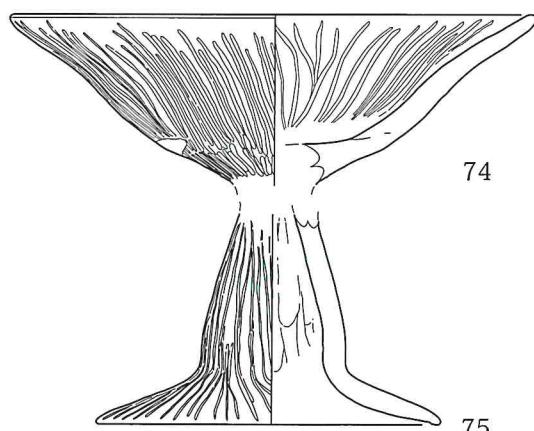
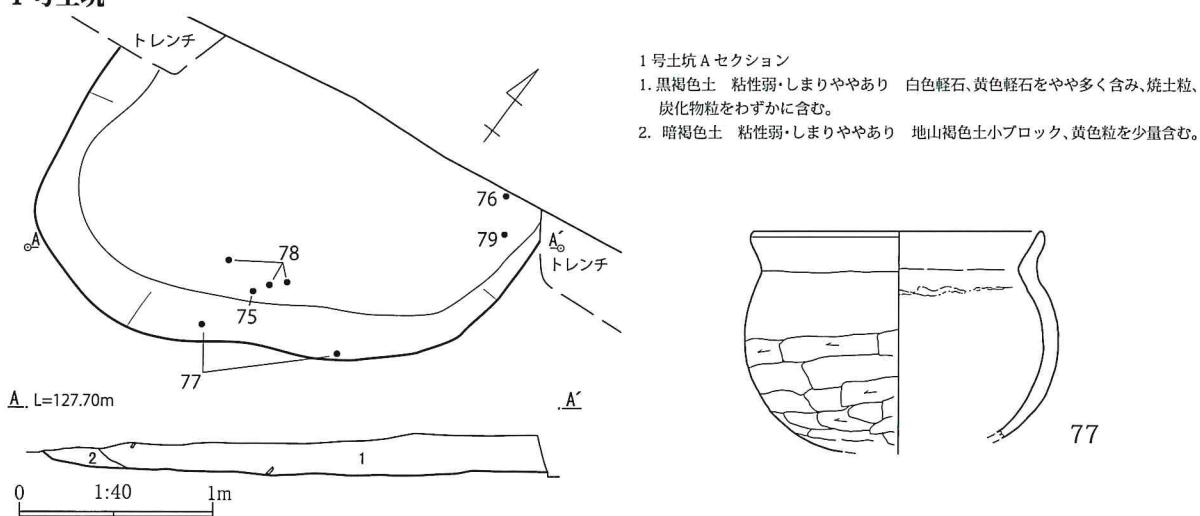


第22図 21号住居 平・断面図 (1/60) 出土遺物図 №68～70 (1/3) №71～73 (1/4)

1号竪穴状遺構

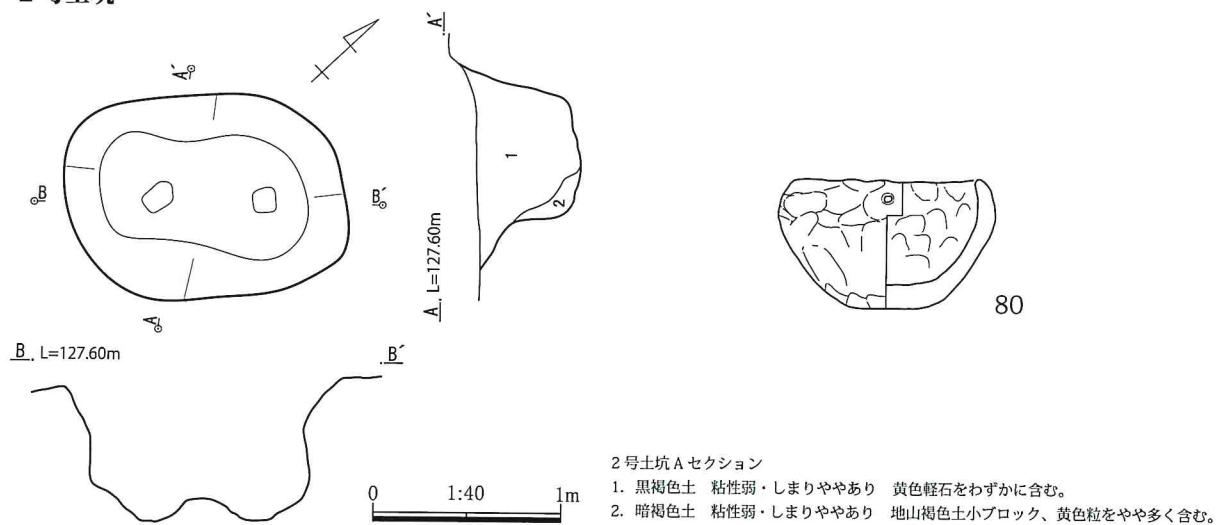


1号土坑



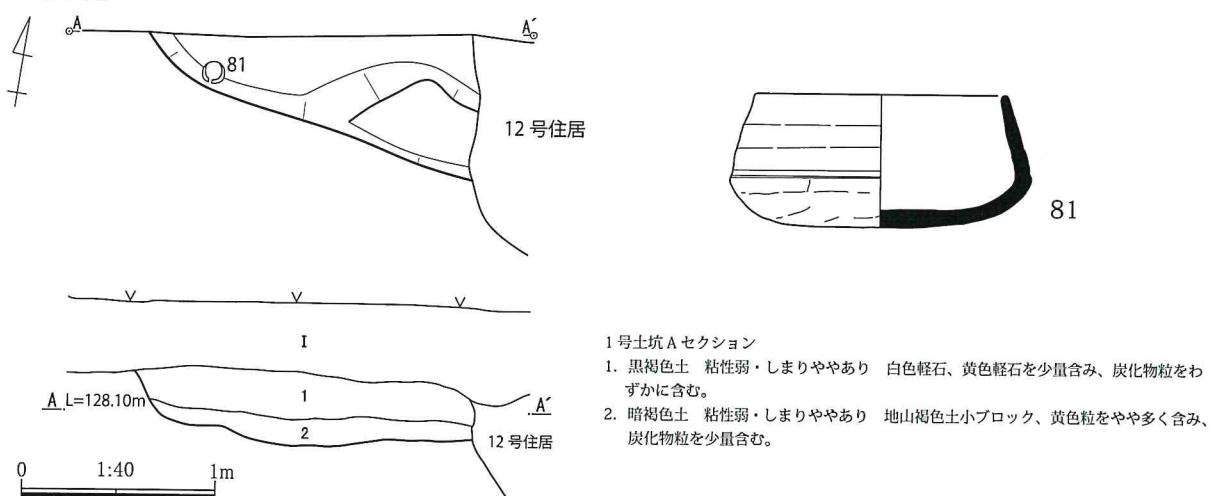
第24図 1号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №.74～78 (1/3) №.79 (1/4)

2号土坑



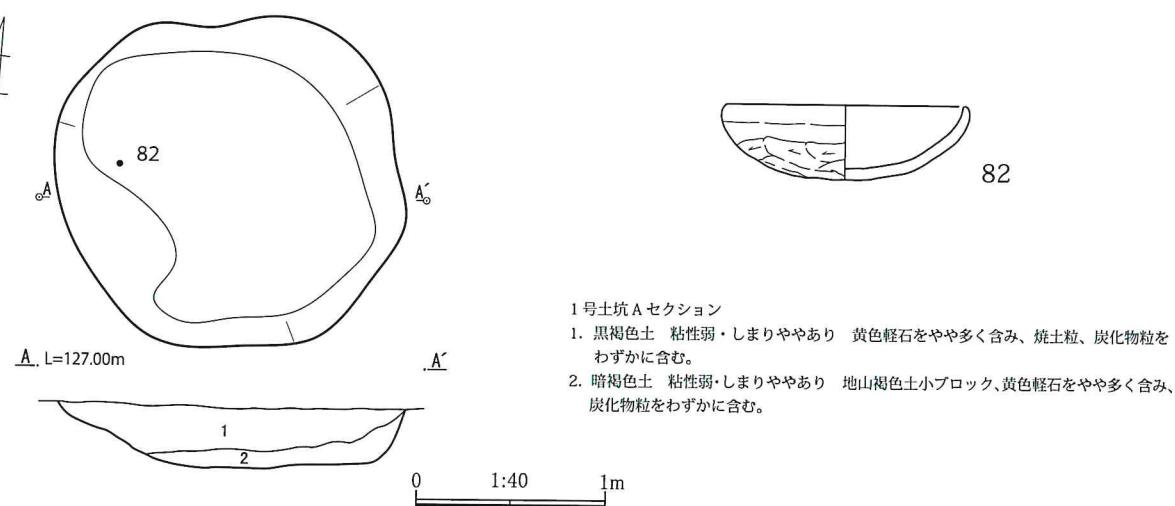
第25図 2号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №80 (1/3)

3号土坑



第26図 3号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №81 (1/3)

4号土坑



第27図 4号土坑 平・断面図 (1/40) 出土遺物図 №82 (1/3)

第2表 出土遺物観察表（単位cm）

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・ <残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
1	土師器 环	1号住居 床面	13.9・ 5.7・ —	外面：口縁部ヨコナデ 体部横方向の細い削り 内面：口唇～口縁部強いヨコナデで内斜 体部放射状ミガ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
2	土師器 甕	1号住居 床面	12.0・ — <9.4>	外面：口縁部ヨコナデ 体部横方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒・雲母粒	良好(硬質) 橙色
3	土師器 甕	1号住居 掘り方	17.0・ — <13.6>	外面：口縁部ヨコナデ 体部縦方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
4	土師器 台付甕	13号住居 床面	—・ 9.5 <9.1>	外面：体部縦方向のヘラ削り 脚部縦方向のヘラ削り 内面：体部丁寧なヘラ削り 脚部ヨコナデ	細砂粒・黑色粒	良好(硬質) 橙色
5	須恵器 环	14号住居 覆土	13.0・ 4.3・ 7.6	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転ヘラ切後未調整 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好(硬質) 灰白色
6	須恵器 短頸壺	14号住居 掘り方	—・ — <5.5>	外面：ロクロ整形 口縁部～頸部ロクロナデ 体部ヘラ削り 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰白色
7	土製品 土垂	14号住居 覆土		長さ：4.2 厚さ：1.7 孔径：0.41 重さ：10g		良好(硬質) 黒褐色
8	土製品 土垂	14号住居 覆土		長さ：4.1 厚さ：1.7 孔径：0.38 重さ：12g		良好(硬質) 褐色
9	土師器 甕	2号住居 床面	20.4・ 29.7 7.2	外面：口縁部ヨコナデ 体部縦方向から斜方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部縦方向のヘラ削り 黒斑あり	細砂粒・白色粒 黒色粒・角閃石粒	良好(硬質) 橙色
10	土師器 环	5号住居 覆土	13.2・ — <3.2>	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒 角閃石粒	良好(硬質) にぶい橙色
11	土師器 环	7号住居 覆土	10.4・ — <3.1>	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒	良好 橙色
12	土師器 高环	7号住居 覆土	—・ — <7.0>	外面：体部ヘラ削り 脚部ナデ 内面：体部ミガキ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好 橙色
13	土師器 环	8号住居 カマド掘り方	10.2・ — <3.6>	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良(やや軟質) 橙色
14	土師器 台付甕	8号住居 掘り方	10.0・ 16.1 11.0	外面：口縁部ヨコナデ 体部縦方向のヘラ削り 脚部ミガキあり 体部下～脚部に煤の付着あり 内面：口縁部ヨコナデ ヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好 橙色
15	須恵器 高环	8号住居 床面	27.0・ — <2.2>	外面：ロクロ整形 口縁部ロクロナデ 体部回転ヘラ削り 内面：ロクロナデ 内面中央付近にわずかに布压痕あり	細砂粒・白色粒	やや不良 灰白色
16	土師器 甕	8号住居 カマド	21.5・ — <21.7>	外面：口縁部ヨコナデ 体部斜方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒・角閃石粒	良好 褐色
17	土師器 甕	8号住居 カマド	20.0・ 30.3 3.6	外面：口縁部ヨコナデ 体部縦方向のヘラ削り 黒斑あり 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 にぶい橙色
18	土師器 甕	8号住居 カマド	21.6・ 34.5 4.5	外面：口縁部ヨコナデ 体部斜方向のヘラ削り 黑斑あり 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒・角閃石粒	良好 橙色
19	土師器 甕	8号住居 カマド	—・ — 4.1 <9.4>	外面：体部斜方向のヘラ削り 底部ヘラ削り 内面：体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 角閃石粒	良好 にぶい橙色
20	土師器 甕	8号住居 カマド	21.6・ — <17.2>	外面：口縁部ヨコナデ 体部斜方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ (No.19と同個体か)	細砂粒・白色粒 角閃石粒	良好 にぶい橙色
21	土師器 甕	8号住居 カマド	23.9・ 36.4 7.8	外面：口縁部ヨコナデ 体部縦～斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部横方向のナデ	粗砂粒・白色粒 雲母粒	良好(硬質) にぶい橙色
22	須恵器 甕	8号住居 床面	23.0・ — <10.1>	外面：口縁部ロクロナデ 体部平行叩き痕 口縁部～体部白色自然釉 内面：口縁部ロクロナデ 体部同心円あて具痕	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 暗灰色
23	須恵器 甕	8号住居 床面	24.0・ — <11.8>	外面：口縁部ロクロナデ 体部平行叩き痕 内面：口縁部ロクロナデ 体部同心円あて具痕		やや不良 灰白色
24	須恵器 蓋	9号住居 床面	12.5・ — 3.4	外面：天井部～体部回転ヘラ削り 口縁部ロクロナデ 宝珠摘 内面：ロクロナデ 口縁部かえり	細砂粒・白色粒	良好 灰色
25	須恵器 蓋	9号住居 床面	15.7・ — 2.8	外面：天井部～体部回転ヘラ削り 口縁部ロクロナデ 釦摘 外面全体に白色自然釉あり 内面：ロクロナデ 中央部指頭圧痕あり 口縁部かえり	細砂粒・黑色粒	良好 灰色
26	須恵器 蓋	9号住居 床面	18.1・ — 1.6	外面：天井部～体部回転ヘラ削り 口縁部ロクロナデ 釦摘 内面：ロクロナデ 口縁部かえり	細砂粒・白色粒	良好 灰色
27	須恵器 环	9号住居 床面	12.0・ 3.4 8.4	外面：ロクロ整形 底部端回転ヘラ削り1周 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整 部分的に自然釉 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
28	須恵器 环	9号住居 覆土	12.0・ 3.2 6.8	外面：ロクロ整形 底部端回転ヘラ削り1～2周 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整 内面：ロクロ整形 底部中央凸あり	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 灰色
29	須恵器 环	9号住居 覆土	11.9・ 3.2 8.9	外面：ロクロ整形 底部端回転ヘラ削り1周 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整 内面：ロクロ整形 底部中央凸あり	粗砂粒・白色粒 黒色粒	良好 灰色

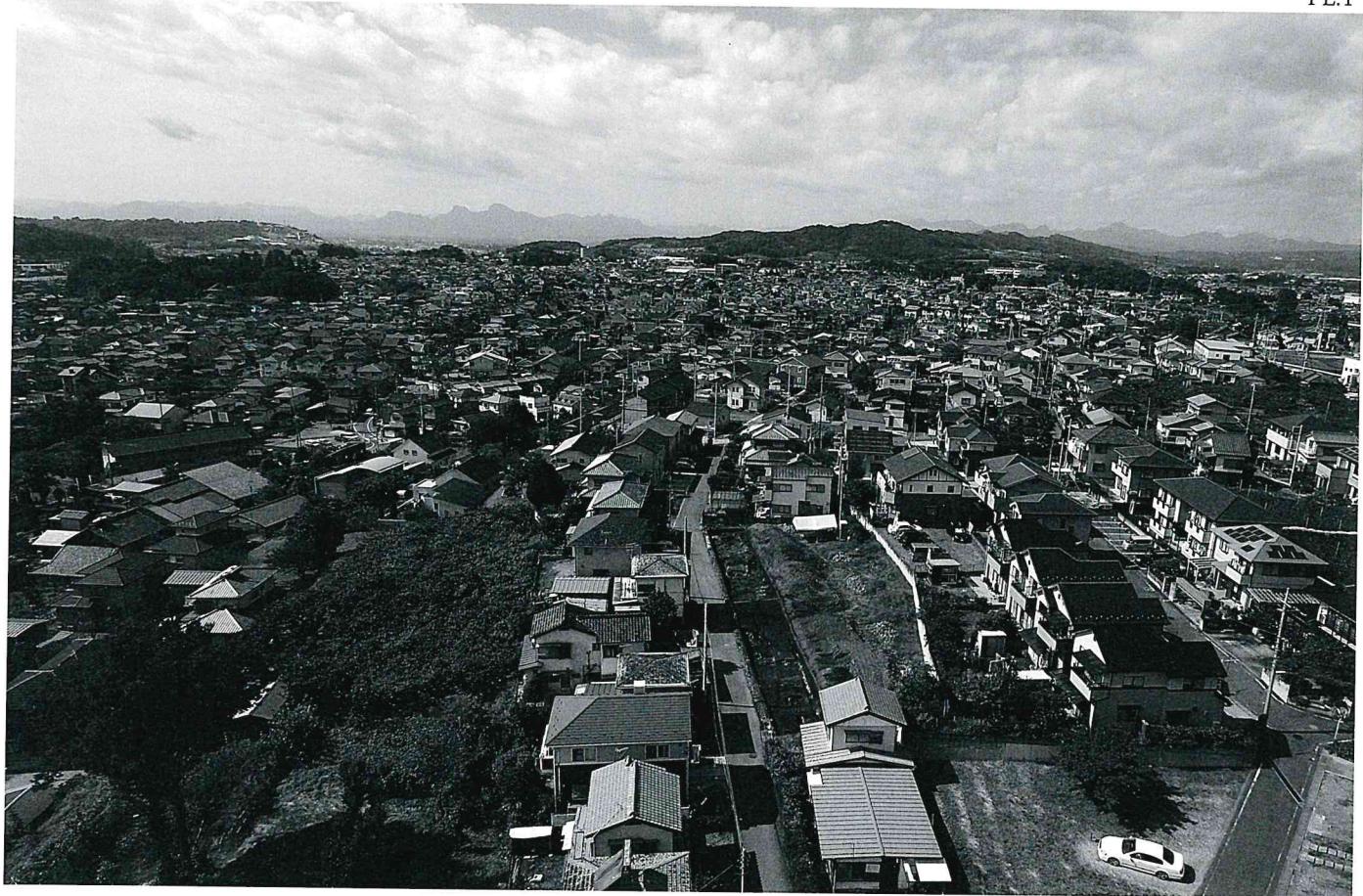
番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
30	須恵器 坏	9号住居 床面	13.3・ 8.3 4.0	外面:ロクロ整形 底部回転ヘラ切り後未調整 内面:ロクロ整形 底部中央凸あり 歪みあり	細砂粒・白色粒 黒色粒	やや不良 灰白色
31	土師器 坏	10号住居 床面	13.0・ 一 4.5	外面:口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 橙色
32	土師器 甕	10号住居 床面	23.2・ 一 〈10.4〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ ヘラナデ	粗砂粒・白色粒 雲母粒	良好 橙色
33	須恵器 坏	17号住居 掘り方	— ・ 7.1 〈3.4〉	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 内面:ロクロ整形	細砂粒・黑色粒	やや不良 灰色
34	須恵器 坏	17号住居 掘り方	13.8・ 7.4 3.8	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 内面:ロクロ整形	細砂粒・黑色粒 雲母粒	やや不良 灰白色
35	土師器 甕	17号住居 掘り方	18.2・ 一 〈8.5〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 口縁コの字状 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ(ハケ状工具か)	粗砂粒・黑色粒	良好 明褐色
36	土師器 甕	17号住居 床面	18.2・ 一 〈8.5〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 口縁コの字状 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ(板目)	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 橙色
37	石製品 滑石製模造品	17号住居 覆土		長:4.1 幅:2.3 厚:0.3 孔径:各0.1 重:6 g 剣形で2か所の穿孔あり		— 暗緑灰色
38	土師器 坏	11号住居 覆土	15.0・ 一 4.4	外面:口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部～底部ナデ	細砂粒・白色粒	やや不良 明褐色
39	須恵器 坏	11号住居 床面	18.7・ 9.3 4.1	外面:ロクロ整形 底部端回転ヘラ削り1～2周 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整 内面:ロクロ整形 底部中央凸あり	細砂粒・白色粒 黒色粒	やや不良 灰白色
40	土師器 甕	11号住居 床面	12.0・ 一 5.0	外面:口縁部ヨコナデ 口唇部内傾 体部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒・角閃石粒	良好 橙色
41	土師器 甕	11号住居 カマド	22.0・ 一 7.9	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 橙色
42	土師器 甕	11号住居 カマド	21.3・ 一 22.4	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒・角閃石粒	良好 橙色
43	土師器 甕	11号住居 カマド	— ・ 4.6 〈9.3〉	外面:体部ヘラ削り 底部ヘラ削り 内面:体部～底部ヘラナデ	粗砂粒・白色粒 雲母粒	良好 明褐色
44	須恵器 坏	12号住居 床面	12.8・ 7.9 3.7	外面:ロクロ整形 底部回転ヘラ切り後未調整 内面:ロクロ整形 底部中央凸あり	細砂粒・白色粒	良好 灰色
45	須恵器 坏	12号住居 床面	12.7・ 8.2 3.7	外面:ロクロ整形 底部回転ヘラ切り後一部ヘラナデ調整 内面:ロクロ整形 底部中央に凸あり 白～緑の自然釉	細砂粒・白色粒	良好 灰色
46	須恵器 坏	12号住居 床面	13.6・ 7.6 3.9	外面:ロクロ整形 底部回転ヘラ切り後ナデ調整 内面:ロクロ整形 底部中央に凸あり	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 オリーブ灰色
47	須恵器 坏	12号住居 床面	13.6・ 7.7 4.3	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 内面:ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好 灰色
48	須恵器 坏	12号住居 床面	14.9・ 10.1 3.3	外面:ロクロ整形 底部端回転ヘラ削り1周 底部回転ヘラ切り後ナデ調整 内面:ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好 オリーブ灰色
49	須恵器 坏	12号住居 掘り方	13.6・ 8.3 4.0	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 内面:ロクロ整形	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 灰色
50	須恵器 蓋	12号住居 床面	16.2・ 一 〈2.2〉	外面:天井部～体部回転ヘラ削り 口縁部ロクロナデ 摘欠損 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 灰色
51	土師器 甕	12号住居 床面	13.5・ 一 14.0	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面:口縁部～頸部ヨコナデ 体部ヘラナデ コゲ付着あり	細砂粒・白色粒	良好 橙色
52	灰釉陶器 碗	15号住居 覆土	13.2・ 一 〈4.3〉	外面:ロクロ整形 口縁部から体部下まで薄く施釉(緑灰色) 内面:ロクロ整形	細砂粒・白色粒 黒色粒	やや不良 オリーブ灰色
53	須恵器 坏	15号住居 覆土	12.7・ 5.7 4.7	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 自然釉あり 内面:ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好 灰色
54	須恵器 坏	16号住居 床面	13.4・ 6.0 4.2	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 内面:ロクロ整形 黒斑あり	細砂粒・白色粒	やや不良 灰白色
55	須恵器 坏	16号住居 床面	14.0・ 6.9 4.2	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 内面:ロクロ整形 黒斑あり 酸化炎焼成	細砂粒・白色粒	やや不良 灰黄褐色
56	須恵器 坏	16号住居 床面	12.6・ 6.1 4.0	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 内面:ロクロ整形	細砂粒・黑色粒	良好 灰白色
57	須恵器 高台付坏	16号住居 床面	— ・ 7.0 〈3.5〉	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後貼付け高台 内面:ロクロ整形	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 灰色
58	須恵器 皿	16号住居 床面	13.5・ 5.8 3.5	外面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後貼付け高台 内面:ロクロ整形 酸化炎焼成	細砂粒・白色粒 黒色粒・雲母粒	良好 灰黄褐色
59	土師器 甕	16号住居 床面	19.8・ 一 〈15.2〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 口縁部コの字状 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ(板目)	細砂粒・黑色粒	良好 橙色
60	土師器 甕	16号住居 床面	20.3・ 一 〈17.6〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 口縁部コの字状 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・黑色粒 雲母粒	良好 橙色
61	土師器 甕	16号住居 覆土	20.1・ 一 〈15.2〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 口縁部コの字状 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ(板目)	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 にぶい黄褐色

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
62	須恵器 壺	20号住居 床面	13.7・ 3.5	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形	細砂粒・黒色粒	良好 灰白色
63	須恵器 高台付壺	20号住居 覆土	14.4・ 5.0	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 灰色
64	須恵器 高台付壺	20号住居 床面	—・ 4.4	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 焼し	細砂粒・白色粒	やや不良 暗灰色
65	須恵器 高台付壺	20号住居 覆土	15.1・ 6.2	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 底部回転糸切り後(右か)貼付け高台	細砂粒・白色粒 黒色粒	やや不良 灰白色
66	土師器 台付甕	20号住居 床面	—・ 9.5 〈5.5〉	外面:体部ヘラ削り 脚部ヨコナデ 内面:体部～底部ヘラナデ 脚部ヨコナデ 脚部煤付着	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 橙色
67	土師器 甕	20号住居 覆土	25.0・— 〈6.6〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 口縁部コの字状 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ(板目)	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 橙色
68	須恵器 壺	21号住居 床面	12.7・ 3.8	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整 酸化炎焼成黒斑あり	細砂粒・白色粒 雲母	やや不良 灰黄褐色
69	須恵器 壺	21号住居 掘り方	14.0・ 4.1	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整	細砂粒・白色粒 黒色粒	やや不良 灰白色
70	須恵器 壺	21号住居 床面	12.7・ 3.8	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 底部右回転糸切り後未調整	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 灰色
71	須恵器 羽釜	21号住居 床面	21.0・— 〈12.1〉	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 顎貼付け 酸化焰焼成	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 にぶい橙色
72	須恵器 羽釜	21号住居 床面	23.4・— 〈12.3〉	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 顎貼付け 体部沈線状 酸化焰焼成 部分的にコゲ付着あり	細砂粒・白色粒 黒色粒・雲母粒	良好 褐灰色
73	須恵器 羽釜	21号住居 床面	21.6・— 〈23.6〉	外面:ロクロ整形 内面:ロクロ整形 顎貼付け 酸化焰焼成 部分的にコゲ付着あり	極細砂粒 黒色粒	やや軟質 暗灰黄色
74	土師器 高壺	1号土坑 確認面	20.6・— 〈6.8〉	外面:ヨコナデおよびナデ後斜め方向のミガキ 内面:ヨコナデおよびナデ後斜め方向のミガキ 内外面部部分的に黒斑あり	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 赤褐色
75	土師器 高壺	1号土坑 底面	13.4 〈8.3〉	外面:脚部ナデ?後縦方向のミガキ 堀部ヨコナデ後脚部 から切れ目なく延長される斜め方向のミガキ 内面:脚部縦方向のヘラナデ 堀部ヨコナデ	細砂粒・白色粒	良好 明褐色
76	土師器 高壺	1号土坑 底面	18.4・— 〈5.4〉	外面:体部ヨコナデ後斜め方向の細かいミガキ 底部ナデ 内面:体部～底部ヨコナデ後斜め方向の細かいミガキ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 明赤褐色
77	土師器 鉢	1号土坑 覆土	11.6・— 〈8.7〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部上ヨコナデおよびナデ 体部 下～底部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒	良好 橙色
78	土師器 鉢	1号土坑 覆土	17.0・— 〈9.9〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面:ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好 明褐色
79	土師器 甌	1号土坑 覆土	16.5・ 12.8	外面:口縁部ナデ 体部ヘラ削り 底部ヘラ削り 穿孔径 2.3 内面:口縁部ナデ(指頭圧痕あり) 体部ヘラ削り	細砂粒・白色粒 角閃石粒	良好 橙色
80	土師器 ミニチュア 鉢	2号土坑 覆土	16.5・ 12.8	外面:口縁部ヨコナデ 体部ナデ(指頭圧痕あり) 底部ナデ 内面:口縁部ヨコナデ 体部ナデ(指頭圧痕あり) 煤付着 口縁部に3mmの穿孔 欠損の為不明瞭だが対面にもあり	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好 褐色
81	須恵器 壺	3号土坑 底面	10.1・— 5.3	外面:ロクロ整形 体部から底部ヘラ削り 内面:ロクロ整形 底部ナデ	細砂粒・黑色粒	やや不良 灰白色
82	土師器 壺	4号土坑 覆土	16.5・— 3.0	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	やや不良 橙色

VII 総括

検出された竪穴住居は、5世紀後半から6世紀代1軒、7世紀代8軒、8世紀代5軒、9世紀代6軒、10世紀代1軒の計21軒である。調査区からは縄文時代および弥生時代の遺構は検出されておらず、5世紀後半から6世紀頃に新たに発生した集落と推測される。集落は継続的に10世紀前半頃まで営まれ、特に7世紀後半頃がピークとなり、調査区西側では重複しながら密に竪穴住居が構築されている。10世紀になると急速に軒数が減少し確認された住居は1軒のみである。今回検出された竪穴住居は北西から南東に傾斜する暖斜面に構築されている。南側は谷に向かい急こう配に下り、北側は丘陵頂部に向け斜面はきつくなる。遺跡は標高128mから129mの等高線に沿った帯状の平坦面に構築されている。東へ約100m程で丘陵東側先端部となり南から東、そして北側の展望は非常に良好で遠方まで見通せる。集落はこの東側先端部に向かい広がりを見ると推測され、調査区の西側に続く暖傾斜面においてもその広がりが推測される。

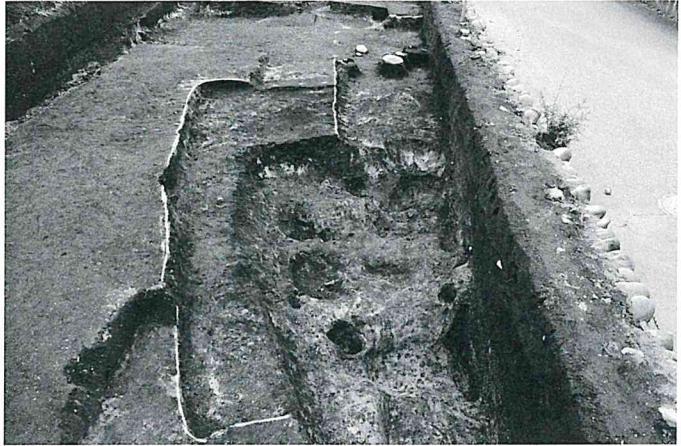
写真図版



空撮 東から



調査区全景 垂直 上が南



1・10・13・14号住居全景 南西から



1号住居 遺物No.1・2出土状況近景 西から



2号住居全景 南から



2号住居カマド全景 南から



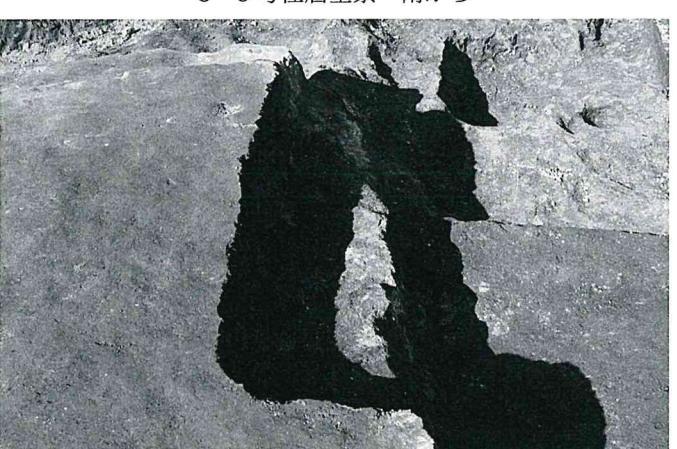
2号住居 遺物No.9出土状況 東から



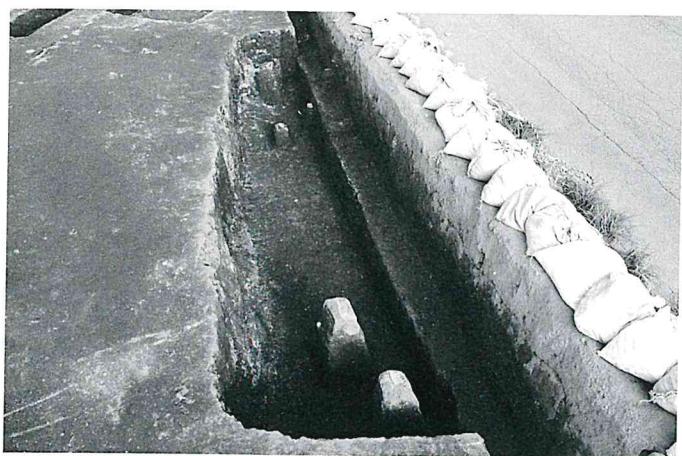
3・5号住居全景 南から



4号住居東側部 南から



6号住居全景 南から



7号住居全景 西から



8号住居セクション 東から



8号住居遺物出土状況全景 南から



8号住居カマド全景 南から



8号住居 遺物No. 22・23 出土状況近景 南西から



8号住居カマド袖構築材No. 19～21 検出状況 南から



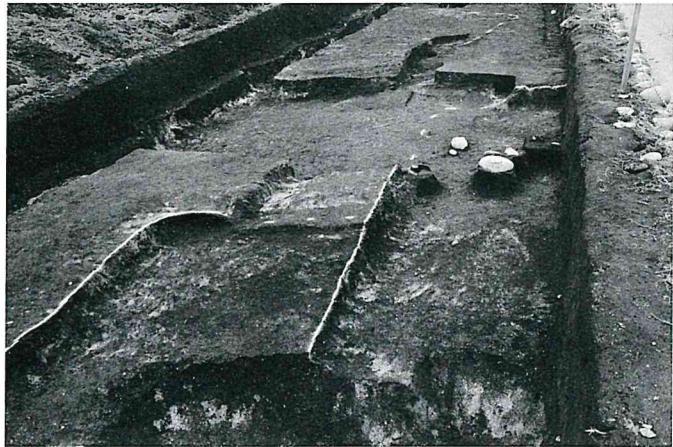
9号住居遺物出土状況全景 南から



9号住居カマド全景 南から



9号住居 遺物No. 26・29 出土状況近景 東から



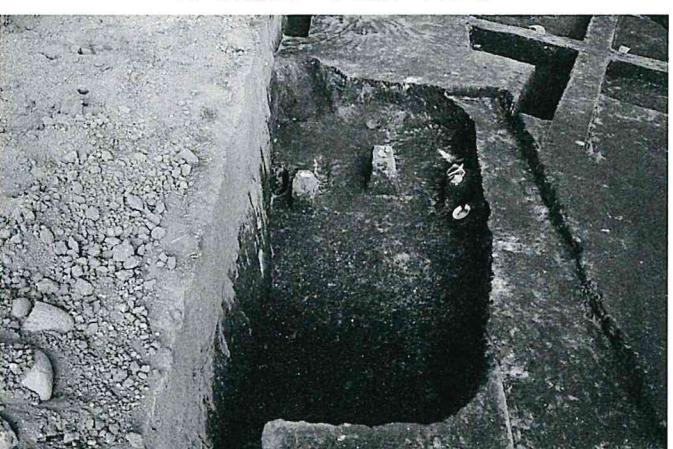
10・13・17号住居全景 西から



11号住居全景 南から



11号住居カマドセクション（遺物No. 42） 南西から



11号住居カマド全景 南から

11号住居遺物出土状況近景 西から

12号住居全景 西から



12号住居カマド全景 西から



12号住居 遺物No.46・48・50・51出土状況 北から



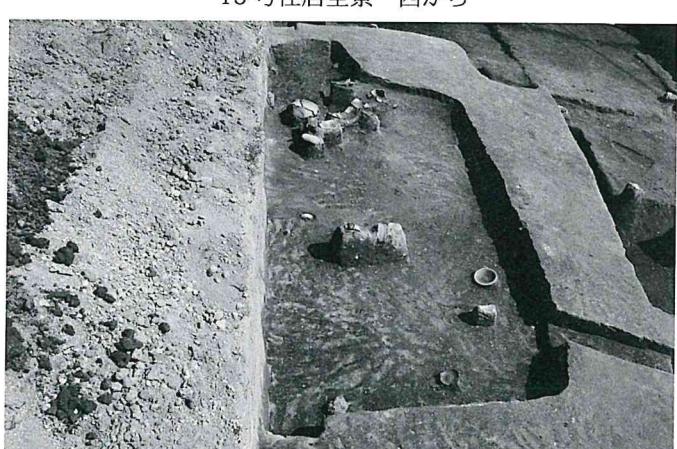
14号住居全景 西から



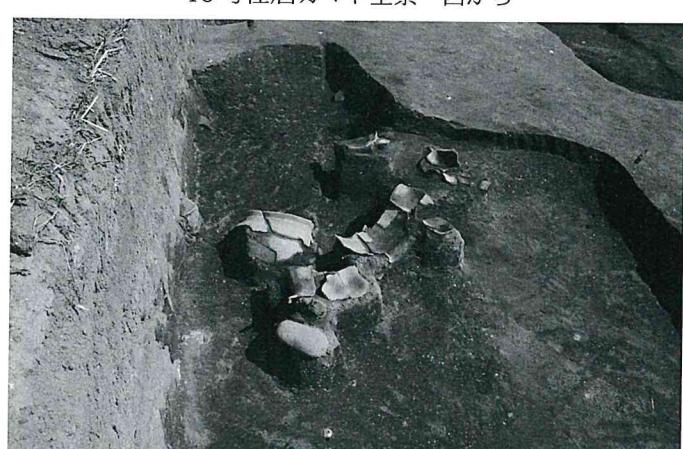
15号住居全景 西から



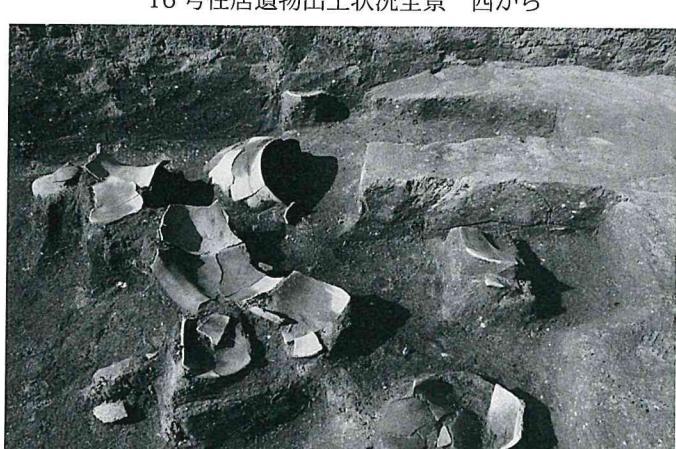
15号住居カマド全景 西から



16号住居遺物出土状況全景 西から



16号住居カマド遺物No.59・60出土状況近景 西から



16号住居カマドセクション・遺物出土状況 南から



17号住居遺物出土状況全景 北から



17号住居 遺物No.34 出土状況 北西から



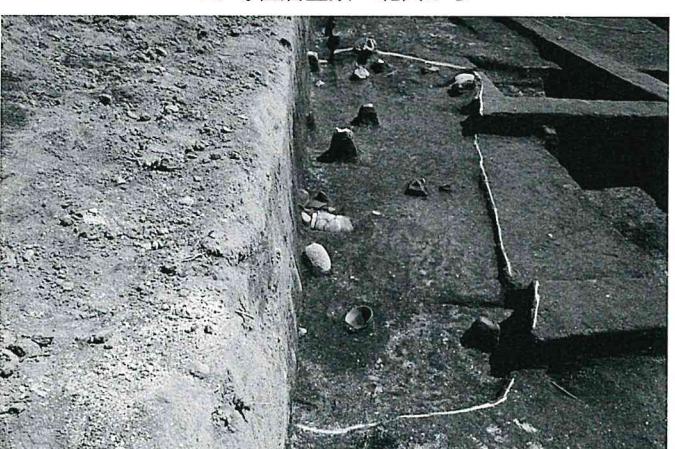
19号住居全景 南東から



20号住居全景 北西から



20号住居 遺物No.64・65 出土状況 北西から



21号住居遺物出土状況全景 西から



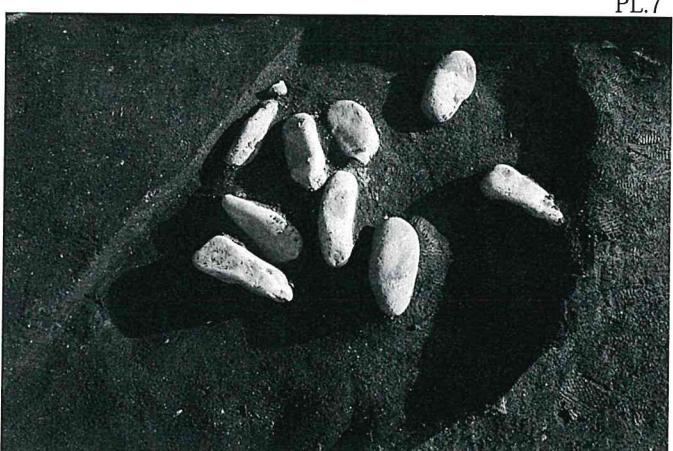
21号住居 遺物No.73 出土状況近景 南西から



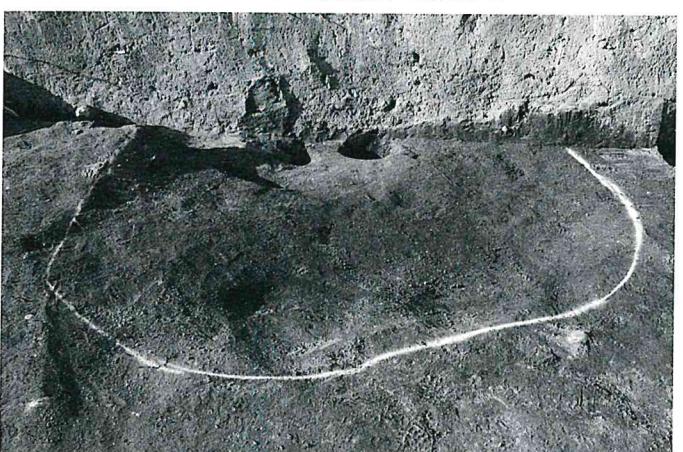
21号住居 遺物No.68・70 出土状況近景 南西から



1号竖穴状遺構全景 南西から



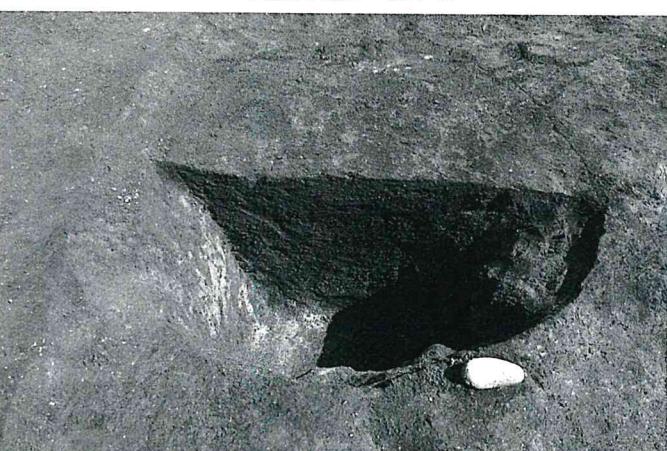
1号竖穴状遺構遺物出土状況近景 北から



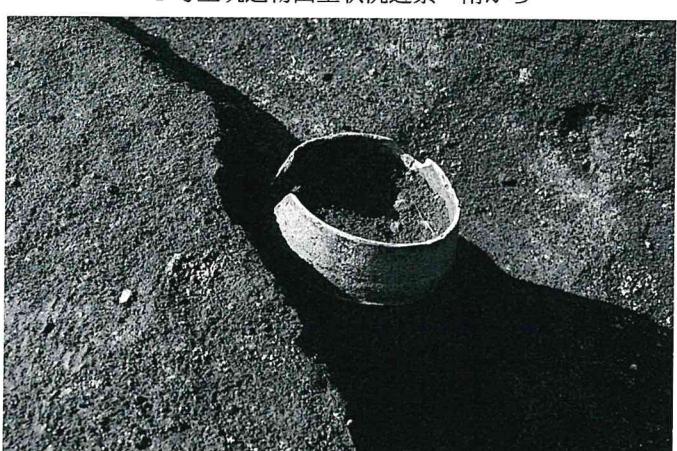
1号土坑全景 南から



1号土坑遺物出土状況近景 南から



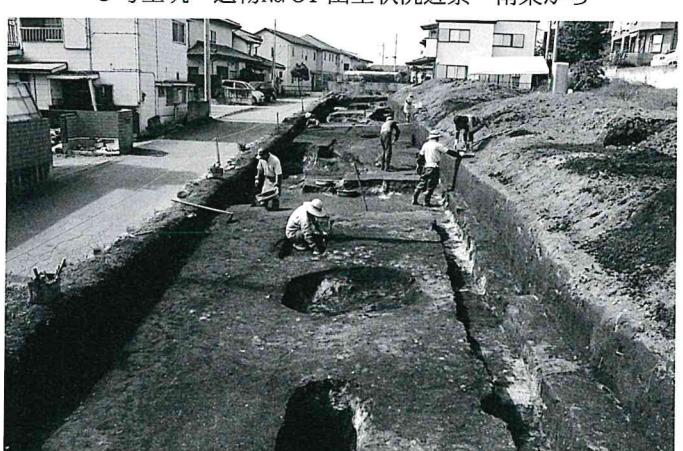
2号土坑セクション 南西から



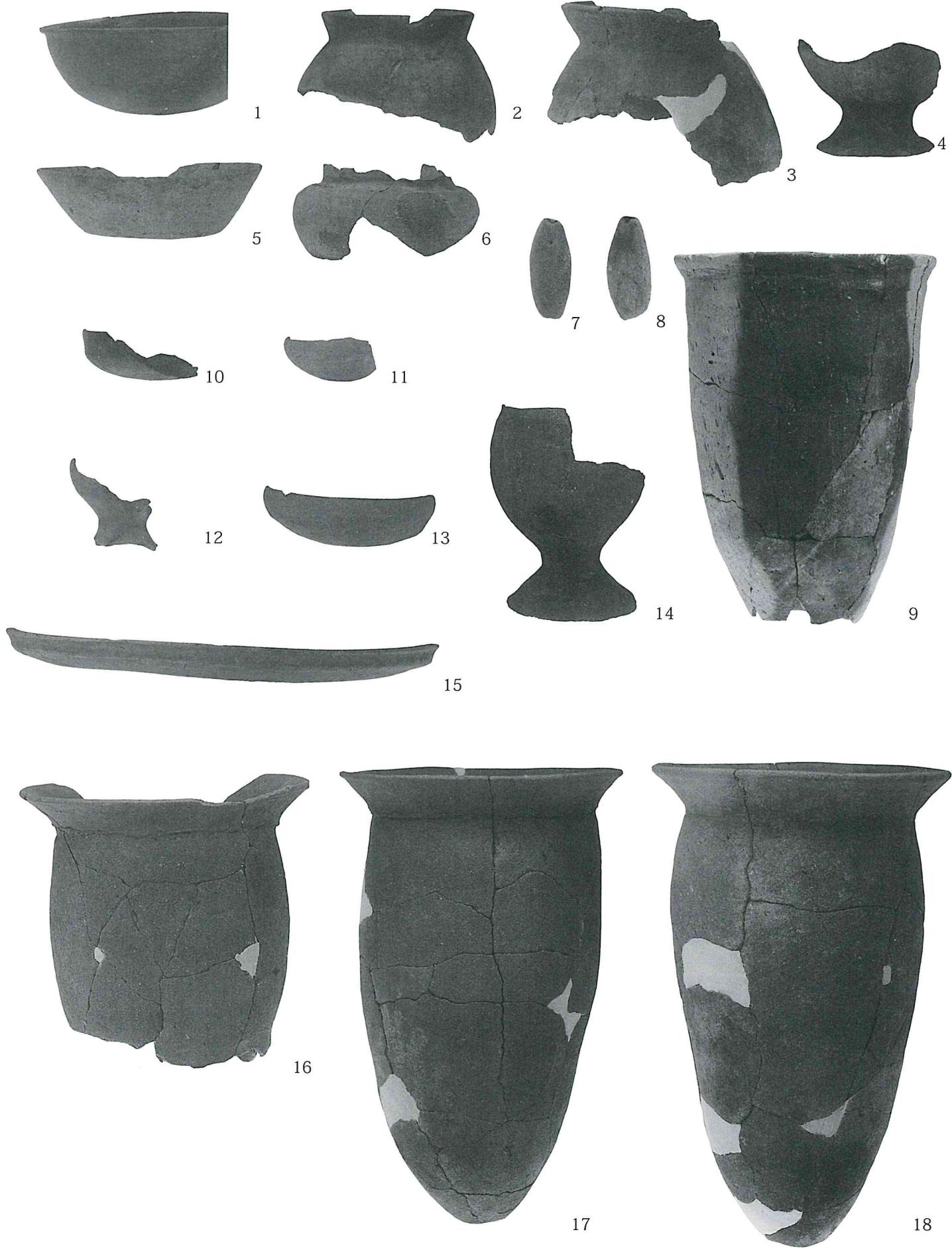
3号土坑 遺物No. 81 出土状況近景 南東から



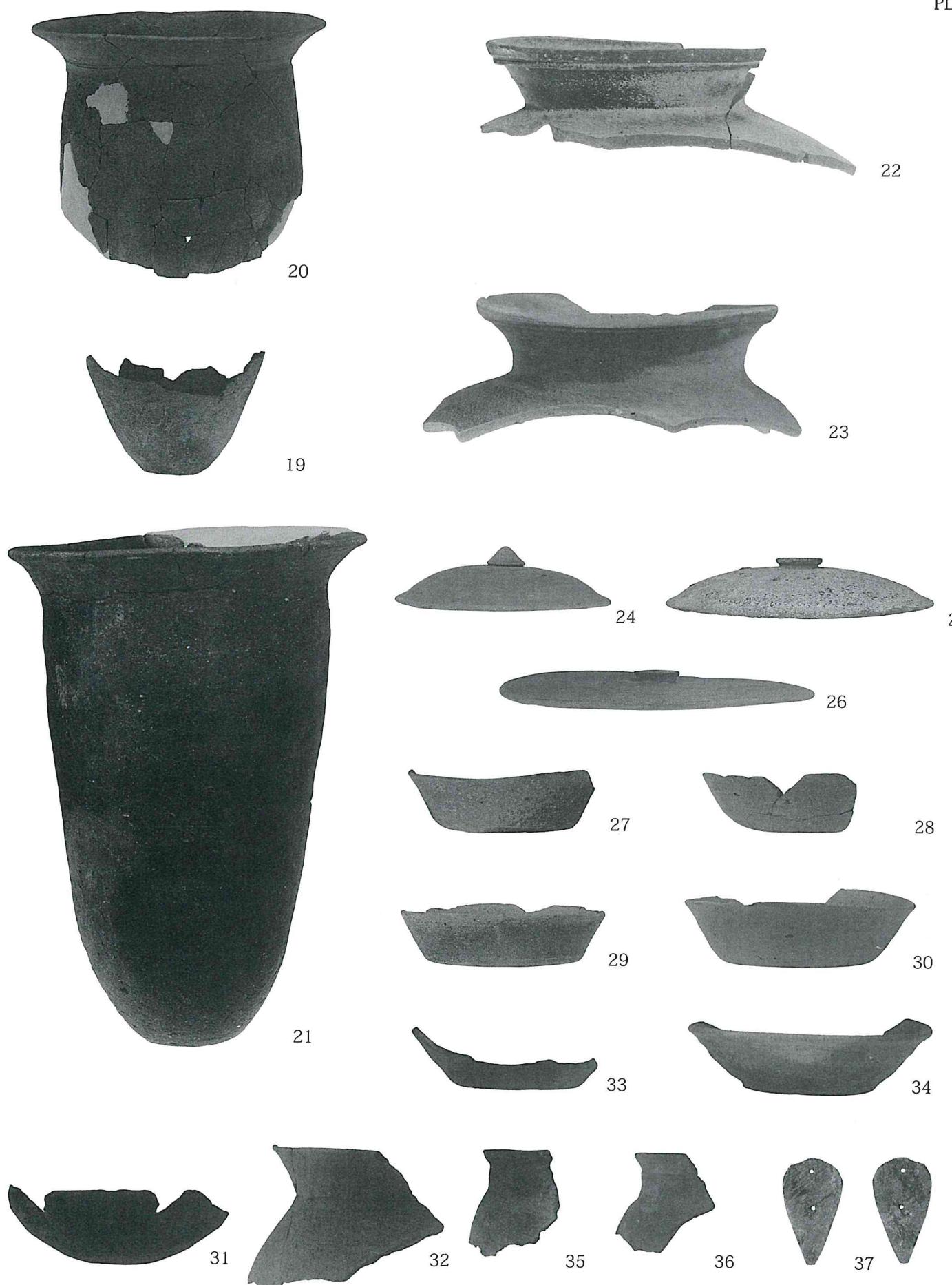
4号土坑 遺物No. 82 出土状況全景 東から



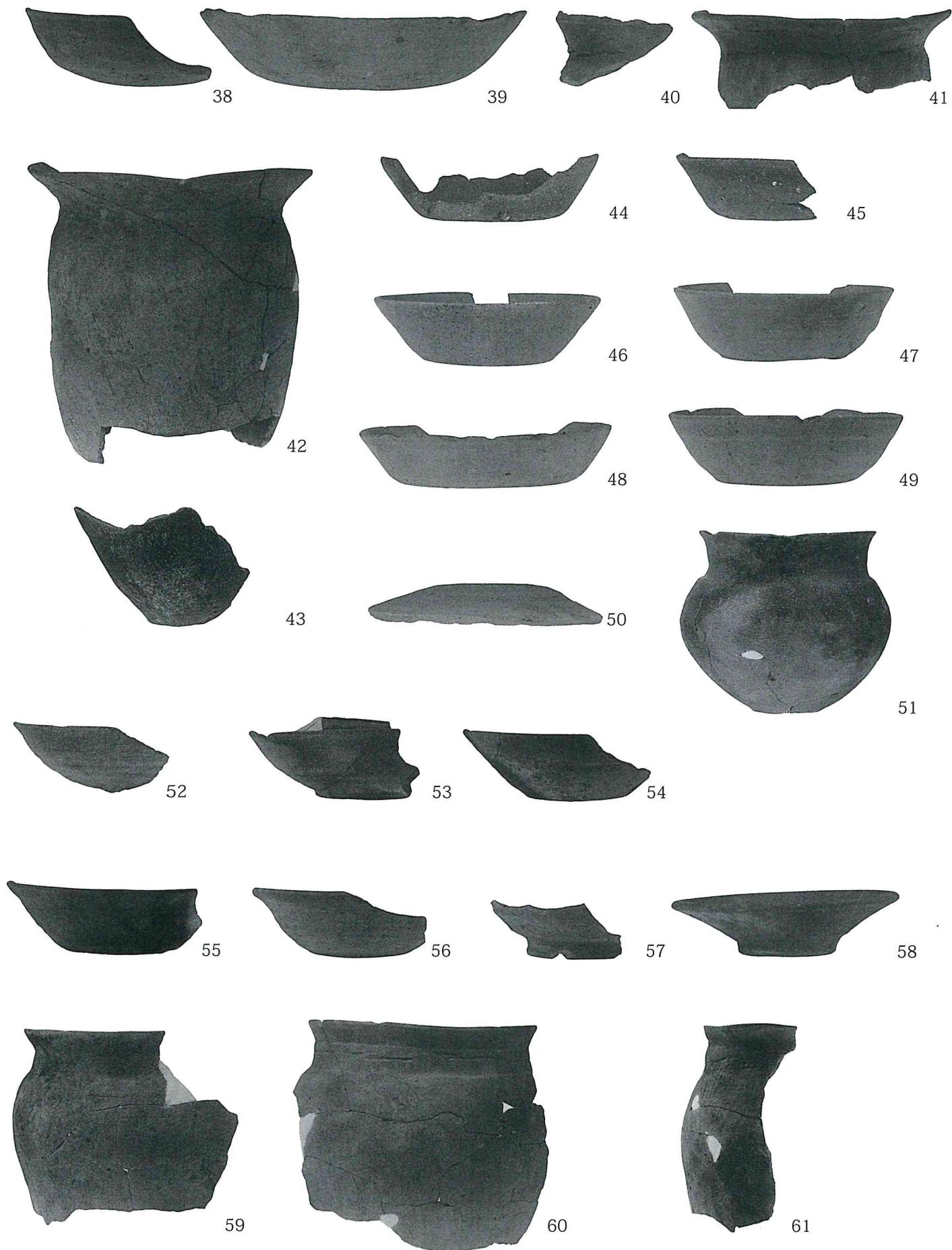
作業風景 東から



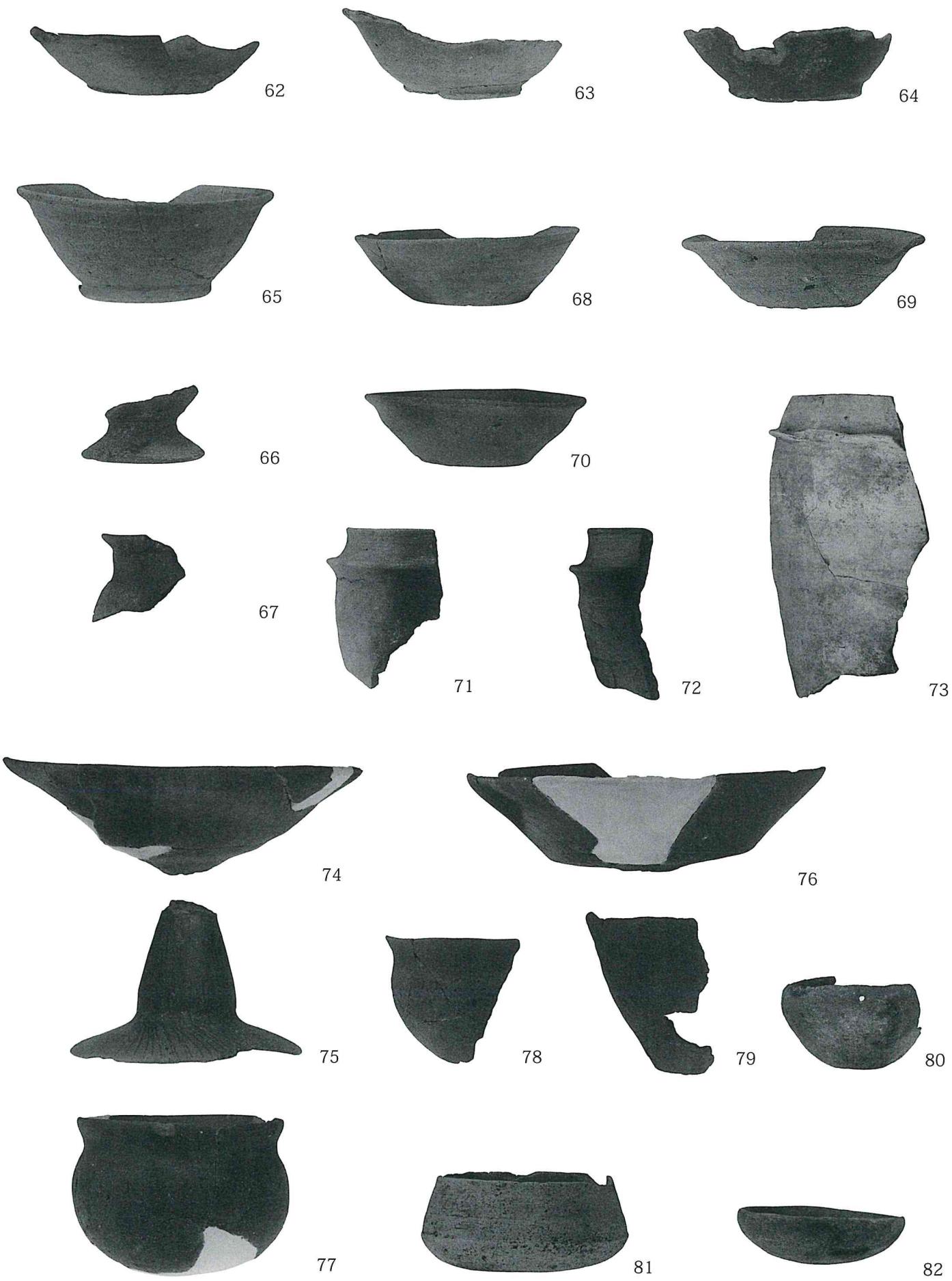
出土遺物写真 No. 1 ~ 18



出土遺物写真 No. 19 ~ 37



出土遺物写真 №.38～61



参考文献

- 群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県
- 高崎市教育委員会 1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書高崎市教育委員会
- 田村 孝 1998『八幡二子塚遺跡』高崎市遺跡調査会
- 高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
- 高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代II』高崎市
- 曾江 哲也 2004『剣崎長瀬西遺跡2』高崎市教育委員会
- 田口一郎・石丸 敦史 2011『八幡中原遺跡3』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	ケンザキカミコオジイセキ
書名	剣崎上小路遺跡
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第355集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒370-0005 群馬県高崎市浜尻町930番地6
発行機関	高崎市教育委員会 文化財保護課
発行年月日	平成27(2015)年7月31日

所収遺跡名	剣崎上小路遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市剣崎町字上小路810番1、810番11						
市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	608	36°34'45"	138°95'59"	20140901	20141014	300m ²	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
剣崎上小路遺跡	集落	古墳～平安時代	竪穴住居・土坑	土師器 須恵器	

— 剣崎上小路遺跡 —
高崎市文化財調査報告書第 355 集

平成 27 年 7 月 25 日 印刷
平成 27 年 7 月 31 日 発行

発行 高崎市教育委員会
文化財保護課

編集 有限会社 高澤考古学研究所
印刷 上武印刷株式会社